ロサンゼルス・オリンピック

アジア予選組合せ決まる

ロサンゼルス・オリンピックの男女ハンドボールのアジア予選日程及び組合せが下記のとおり決定いたしました。

これには迂余曲折がありました。ロサンゼルス・オリンピックのアジア予選については、7月号に既報のとおり、わが国の早期決定の要請にもかかわらず、開催地の論議がなされたのが本年3月21日のアジアハンドボール連盟（AHF）の理事会で、このときも話がまとまらず、やっとAHFが日本開催を決定したのが6月末でした。

国際ハンドボール連盟（IHF）も7月28日付でこれを公示しましたが、そのエントリー締切り日の9月15日の直前になって、AHFから、男子のアジア予選は東アジアと中東地区に分け、それぞれの勝者が第二次予選を行なう、これをIHFも承諾した、というテレックスが入って大混乱に陥りました。

その間、エントリー締切りの結果、エントリーしたのは、男子は日本、中国、韓国、クウェート、中国台北の5カ国で、中東からはクウェートだけだったということが話を一層混乱させました。

結局、9月下旬になって、IHFとAHFとの話がついて、元の鞘におさまりました。

日本の大会組織委員会と開催都県協会の第1回打ち合せは10月7日行なわれ、下記会場のスケジュールを定め、10月8日ローマで開催されたIHF理事会において、男女の組合せも下記のように決定されました。

月日	男子の部			女子の部	
	会場	第1試合	第2試合	会場	対戦
11/12(土)	四日市体育館	15:00 中国×韓国	16:30 日本×中国台北	／	(13:00 開会式)
13(日)	大垣市総合体育館	13:30 中国×中国台北	15:30 日本×クウェート	函館市民体育館	14:00 日本×中国
14(月)	／	／	／	〃	18:00 韓国×中国
15(火)	東京体育館	18:30 日本×韓国	／	〃	18:00 韓国×日本
16(水)	相模原市立総合体育館	18:30 韓国×クウェート	／	／	／
17(木)	／	／	／	〃	18:00 中国×日本
18(金)	市川市体育館	17:30 中国×クウェート	19:00 韓国×中国台北	〃	18:00 中国×韓国
19(土)	／	／	／	〃	15:00 日本×韓国
20(日)	駒沢体育館	16:30 クウェート×中国台北	18:00 中国×日本	／	／

『ハンドボール』

58年10月号（第223号）目次

■アジア予選の見どころ■

日本、中国、韓国の大激戦必至

〈男子の部〉

今度のアジア予選は、日本、中国、韓国の大激戦となるだろう。

常勝国日本が〝昨年のアジア大会〟で初めて中国に24－19で敗れた。ディフェンスその他の問題があったが、今年の4月から発足した市原体制がこれをどう克服して新しい展開を見せるか。

中国のその後の動静は全くつかめていない。恐らく昨年のアジア大会の優勝メンバーがそのまま来日するだろう。参考までに、アジア大会の決勝戦での日中両国のメンバー及び得点数は下に掲げておいた。

得	【中国】	【日本】	得
	XIE JIYONG	大畑	
	WEI HEPING	津川	
7	WU MIGQUN	志賀	
	LI YINGCAI	西山	5
2	GAO ZHONGXIN	斉藤	
6	WANG XIONG	山本	7
	WANG YAOITINO	長野	
2	CAI JIANGEO	松井	2
3	HU WEIDONG	蒲生	1
	SUN TIE	生駒	2
1	SONG ANWEN	池ノ上	2
3	JIN BAILIAN	井藤	

次に韓国であるが、去る10月1日ソウルで行なわれたアジア選手権大会決勝戦で19－25（前半7－8、後半12－17）で日本が韓国に敗れた。開催地が韓国であったこと、韓国の若い選手（平均年齢21歳）が観衆1万人の大声援に乗ったという背景もあるだろうが、ソウル・オリンピックを控えて養成した実力を十二分に発揮したのに対し、日本は、そのハンディキャップをはねのけられなかった、ということができよう。

韓国の若いチームが、アジア選手権優勝（中国は不参加）の勢いに乗って、このアジア予選に臨んでくると怖い。

注目すべきは、14李相孝、2林英喆、3姜泰求、4裵徳寿である。

アジア大会チーム記録

	攻撃回数	シュート回数	シュート成功	シュート失敗	攻撃成功率 (シュート成功/攻撃回数)	シュート成功率 (シュート成功/シュート回数)	保持ミス率 (攻撃回数−シュート回数/攻撃回数)
日本	51	47	35	12	0.69	0.74	4.05
U.A.E	52	33	19	16	0.37	0.56	17.33
日本	50	42	26	16	0.52	0.62	0.16
インド	50	30	12	18	0.24	0.40	0.40
日本	47	38	25	13	0.53	0.66	0.19
クウェート	46	PT 3/3 30 PT 6/8	CH.PU5 20 CH.PU8	10	0.43	0.67	0.35
日本	44	33	21	12	0.48	0.63	0.25
韓国	43	37	20	17	0.47	0.54	0.16
日本	44	31	19	9	0.43	0.61	0.30
中国	44	31	24	5	0.54	0.77	0.16

中東地区からただ一カ国参加するクウェートも、決して侮れない存在である。今回のアジア選手権では、中東諸国のレベルが予想以上に向上している。サウジアラビア、バーレーンも、何れは東アジア諸国をおびやかす存在となろう。

〈女子の部〉

中東地区では女子のハンドボールは行なわれていないので、東アジアだけの参加であるが、中国台北はエントリーしていない。

前回の世界選手権大会でアジア代表として活躍した韓国が、ソウル・オリンピックを控えて益々強化に力を注いでいることは間違いないので、今回の予選でも、相当の強さを発揮するであろう。

韓国は世界女子ジュニア選手権でも上位に進出しており、今年8月の日韓ジュニア交流でも、韓国女子ハンドボールの層の厚さをうかがわせている。

前回世界選手権アジア予選3位の中国のその後の情勢はつかめていないが、中国女子ジュニアも、前回の世界大会で入賞し、今月14日からフランスで行なわれている第4回大会にも、日本、韓国とともに参加しているので、着実に実力はつけていると思われる。

さて、二強を迎える日本女子チームは、一つの大きな選手交代時期を経て、新生なったばかりである。今年のジュニアのアジア予選やテラモ国際で優勝したジュニアナショナルチームの選手も加わって、井監督以下のコーチングスタッフがどのような采配を見せるか見ものである。

★アジア予選出場メンバー★

★男子ナショナルチームメンバー

		氏名	身長cm	体重kg	所属
監督		市原　則之(42)			湧永製薬
コーチ		近森　克彦(38)			三陽商会
〃		野田　清(37)			大同特殊鋼
〃		一宮　昌平(37)			日本体育大
G.K.	1.	大畑　孝広(26)	184	78	本田技研
	12.	井藤　英忠(24)	185	80	湧永製薬
	16.	上村　幸彦(24)	178	75	大同特殊鋼
F.P.	2.	山本　伸二(30)	176	71	湧永製薬
	3.	蒲生　晴明(29)	192	90	大同特殊鋼
	4.	中本　満明(29)	184	82	大同特殊鋼
	5.	関　健三(28)	180	78	三陽商会
	6.	生駒　靖夫(28)	185	84	湧永製薬
	7.	池ノ上孝司(28)	185	78	湧永製薬
	8.	洞ガ瀬直幸(27)	182	77	日新製鋼
	9.	佐々木伸男(27)	178	74	本田技研
	10.	志賀　良弘(27)	188	90	湧永製薬
	11.	松井　幸嗣(26)	178	75	千葉教員
	13.	西山　清(24)	181	77	日新製鋼
	14.	高村　誠一(23)	188	80	大同特殊鋼
	15.	田口　勝利(22)	187	80	大同特殊鋼

★女子ナショナルチームメンバー

	氏名	身長cm	体重kg	所属
監督	井　薫(45)			立石電機
コーチ	櫻塚　正一(39)			武庫川女子大
〃	白神　邦雄(37)			ブラザー工業
〃	カティツァ・イレッシュ(37)			立石電機
G.K.	梅野　康子(24)	162	61	大崎電気
	矢部登茂子(23)	172	70	ジャスコ
	井村文光子(24)	170	63	立石電機
F.P.	西　典子(26)	167	66	大崎電気
	横山　澄江(26)	159	52	山陽ジャスコ
	石井美沙子(24)	167	62	大崎電気
	薮田　典子(24)	165	60	立石電機
	徳淵　好子(23)	161	59	大崎電気
	竹内　保子(23)	162	63	ブラザー工業
	増永真奈美(22)	158	59	ブラザー工業
	前田　薫子(21)	161	58	日立栃木
	中本　美子(21)	164	57	東京重機工業
	寺沢　路子(21)	167	60	ジャスコ
	岩村　英子(21)	173	63	立石電機
	武藤夕起子(19)	168	66	日本ビクター
	野嶋チエミ(19)	166	57	立石電機
	秋成　圭子(20)	164	60	大和銀行
	若水真由美(20)	156	49	大和銀行

●第12回全国中学校選抜大会●



男子 初出場初優勝に輝く 安慶田中
多彩な攻撃で寺井中も初制覇 女子

全国中学校選抜大会も今年で12回を数え、いっそうの充実ぶりをみせた。秋を感じさせる北海道でのゲームは、連日好試合、白熱の試合が続き、中学生のレベルアップが如実にみられ、男子は沖縄の安慶田中が初出場で初優勝という、みごとな制覇、女子も石川の寺井中が断然たる強味で初優勝を飾った。

＜8月22日～24日・札幌市中島体育センター＞

◎男子

▽1回戦

蓮田（埼玉）28（9―7, 19―6）13 山田（香川）

得	【蓮田】		【山田】	得
0	糸井	GK	久保	0
0	村山	GK	稲沢	0
0	田中	FP	森	0
1	喜古	FP	籠	2
2	山田	FP	稲沢	6
1	阿部	FP	長尾	0
12	石井	FP	鹿庭	0
0	宮原	FP	小坂	5
6	渡辺	FP	白石	0
0	小山	FP	水上	0
5	須田	FP	十川	0
1	水野	FP	谷本	0
28				13

（審・林　佐藤）

○…前半互角の戦いであったが、後半に入って地力に勝る蓮田が、早いパスワークからポスト、サイド攻撃を多用して得点を重ね、チームワークの良さを見せた一戦であった。（日原）

〔蓮田・石井雅之主将〕勝ったが内容が悪かった。

〔山田・久保孝志GK〕声が出なくてチームがバラバラになってしまった。初出場だったので、緊張で体が動かなかった。ディフェンスが悪く、最後は試合をあきらめてしまった。

岩出（和歌山）37（19―3, 18―3）6 青葉（北海道）

得	【青葉】		【岩出】	得
0	安本	GK	小林	0
0	前川	GK	井上	0
0	高橋	FP	倉沢	9
0	山末	FP	江川	4
0	中田	FP	味村	3
1	小林	FP	田中	5
2	山本	FP	藤永	11
0	大西	FP	浜野	4
0	中山	FP	田野	1
1	島山	FP	富永	0
1	表	FP	安田	0
1	輪島	FP		
6				37

（審・田中　萩原）

○…基礎体力、基礎技術の出来ていない青葉に対し、岩出は足を使った速攻や素早いパスワークからのカットインなどで着々と加点前半で18―3と大差がついた。後半に入ってもこの流れは変わらず37―6と一方的な試合となったが

青葉は最後まで試合を捨てずに頑張ったのは良かった。（倉本）

（岩出・倉沢敦主将）チームの特色としての速攻を今日は生かすことが出来た。

（青葉・安本直人GK）ちょっと点差が開きすぎた。声を出して気合いを出そうとしたが、動きについていけなかった。

汐路（愛知）20（12－11, 8－6）17 氷川（熊本）

	【氷川】	得
GK	梅田	0
GK	奥田	0
FP	黒木	2
FP	山下	7
FP	田中	0
FP	鉄島	2
FP	渡辺	2
FP	木村	4
FP	平岡	0
FP	内田	0
FP	改田	0
		17

（審・林 佐藤）

	【汐路】	得
GK	沖野	0
GK	湯浅	0
FP	平松	12
FP	安藤	1
FP	広田	2
FP	杉永	1
FP	佐藤	1
FP	加藤	3
FP	矢代	0
FP	竹内	0
FP	成田	0
FP	山田	0
		20

○…両チームとも決め手を欠きロングシューター、チャンスメーカーがいないチームだが、前半氷川のディフェンスの甘さをついた汐路が、後半追い上げた氷川をふり切った試合だった。（日原）

（汐路主将・平松茂雄）52年から7年連続でやって来ました。作戦としては、前半勝負で最初から全員で動き、ロング、ポスト、サイドと多彩な攻めで攻めていこうということでした。これは大体出来たようです。

（氷川GK・梅田篤）ペナルティは8本程あったが1本に押さえることが出来た。でもサイドを止めることが出来なかったのが残念。11月には駅伝がある（この部は陸上競技部とダブっているのだそうです）ので、帰ったら頑張ります。

南星（富山）17（7－7, 10－7）14 下松（山口）

	【下松】	得
GK	飯塚	0
GK	湯浅	0
FP	土田	0
FP	岸田	2
FP	奥村	4
FP	清喜	0
FP	難波	3
FP	上原	1
FP	大間	3
FP	林	0
FP	田中	0
FP	伊藤	1
		14

（審・田中 荻原）

	【南星】	得
GK	布橋	0
GK	越野	0
FP	横本	1
FP	岩崎	2
FP	杉沢	10
FP	有沢	1
FP	吉村	3
FP	上野	0
FP	宮本	0
FP	山本	0
FP	本定	0
FP	小泉	0
		17

○…両チームとも動きがスピーディで似たタイプであった。南星・杉沢のダイナミックなジャンプシュートが決まれば、下松もフェイント、速攻、ジャンプシュートと大技、小技を混ぜてのシーソーゲーム。前半の途中から南星・杉沢がマークされたが、マークをふり切り加点、他のプレーヤーもがんばっていた。実に見応えのあるゲームであった。（笹森）

（南星主将・岩崎泰治）疲れました。前半、杉沢がマークをされた時には消極的になってしまいましたが、その後杉沢がマークをふり切り確実に加点してくれたのでとても良かったです。また、キーパも調子良く、みんながんばりましたのでいい試合でした。

（下松GK・飯塚隆男）フィールド・プレーヤーはよくやってくれていたが、GKが不正行為をしてしまい2つのPTを決められてしまったのは、本当にみんなに悪かったです。南星の4番にマンツーマンをはずされロングを決められたのはとても痛かったです。

大体大附属（大阪）18（7－7, 11－6）13 芦城（石川）

	【附属】	得
GK	岩上	0
GK	山本	0
FP	西岡	6
FP	武良	5
FP	植木	2
FP	山田	0
FP	寺沢	3
FP	西	0
FP	永里	1
FP	前田	1
FP	新井	0
FP	中村	0
		18

（審・内田 真田）

	【芦城】	得
GK	河南	0
GK	山下	0
FP	向井	3
FP	山田	2
FP	中村	2
FP	吉野	0
FP	闘井	2
FP	関戸	3
FP	福田	1
FP	西東	0
FP	永井	0
		13

○…前半、大体大・寺沢のサイドシュートで先行。両チーム積極的な攻撃に欠け、ミスが多いまま終了。後半5分過ぎより大体大のディフェンスが良くなり、芦城積極性がなくミスが目立つ。大体大の速攻、カットが決まり出し差をつけた。（松）

（大体大附属主将・西岡和彦）ディフェンスの一部が崩れた。サイドの上からの攻撃が良くなかった。ロングシュートなどを生かして次の試合をしていきたい。

（芦城GK・河内秀樹）動きが悪かった。あまり言うことはなかったが、チーム全体の調子が良くなかった。自分としては、ノーマークのシュート2本をとれたことがよかった。

安慶田（沖縄）29（15－10, 14－12）22 富岡（群馬）

	【富岡】	得
GK	小間	0
GK	三田	0
FP	戸塚	0
FP	野口	1
FP	須藤	3
FP	井上	1
FP	田村	2
FP	富田	12
FP	野口	0
FP	須藤	0
FP	落合	0
		22

（審・山辺 小島）

	【安慶田】	得
GK	兼島	0
GK	我喜屋	0
FP	金城	0
FP	安里	1
FP	大湾	0
FP	我如古	4
FP	井口	0
FP	伊礼	2
FP	渡久地	4
FP	仲宗根	2
FP	稲福	1
FP	神里	15
		29

○…前半10分過ぎまでは、富岡のポスト、サイド、安慶田のカットインで共にシーソーゲームであったが、徐々に安慶田の神里のシュートが決まり出し、15－10と安慶田のリードで前半を終わる。

後半、ディフェンス力の差が点差になって表われた試合であった。安慶田・神里のシュート力が特に光った。（武田）

（安慶田主将・我如古康彦）試合前はパスミスをしないこと、速攻でいこうと決めていた。よくまとまって試合することができたと思う。試合中は必ず勝てると思っていた。女子が負けただけに、男子が勝ててとても嬉しい。

（富岡GK・小間厚司）安慶田の神里選手がすごかった。自分としては精一杯やるだけと思ってがんばった。ゴールキーパーとしてはまあまあだと思う。チームとしてはいつもの速攻が出なくて残念だった。

操南（岡山）23（13－4, 10－5）9 平田（岐阜）

	【平田】	得
GK	堀田	0
GK	近藤（恭）	0
FP	飯田	2
FP	近藤（由）	5
FP	河合	0
FP	幸村	0
FP	森（弘）	0
FP	伊藤	0
FP	岡本	0
FP	森（栄）	1
FP	佐藤	1
		9

（審・内田 真田）

	【操南】	得
GK	門木	0
GK	岡村	0
FP	箱田	0
FP	久山	0
FP	豊浦	0
FP	松田	4
FP	道端（康）	1
FP	河合	3
FP	村上	0
FP	道端（啓）	11
FP	光行	0
FP	藤沢	4
		23

○…操南25秒、松田のカットインで先行。その後もセット、速攻カットインプレーで着々と加点。平田の攻撃もノーマークになるがGK門木に好守される。後半に入り、平田の単調な攻撃が続き操南に逆速攻される。操南の道端啓のプレーが光った。（小越）

（操南主将・松田宏）声を出してボールを回して、そして走ってを目標にしたが、ボール回しが練習中も本番もあまり巧くいかなかった。

（平田GK・堀田正広）厳しい練習をこなしてこなかったためにボールに集中し、主に45度を使って

の作戦で、悔いのない最後の試合をしようとしたが、ポストまでボールが回せず、シュートを数多く打てなかったのは残念だった。

郡山第一（福島）24（14−4／10−3）7 紋別（北海道）

	【紋別】	得	【郡山一】	得
GK	三浦	0	山沢	0
GK	大友	0	丹井	0
FP	山本	0	難波	6
FP	伊藤	1	秋葉	2
FP	尾崎	3	佐藤文	4
FP	大島	1	古宮	4
FP	青木	1	馬場	1
FP	岡林	1	須田	6
FP	小西	0	池上	0
FP	森	0	三浦清	0
FP	渡辺	0	佐藤孝	1
FP	伊藤	0	三浦雅	0
		7		24

（審・山辺、小島）

○…前半お互いにスローペースであったが、徐々に郡山の速攻が出だし、郡山リードで前半終了。後半、郡山の速攻が決まり出すと同時に、セットからの展開も良くなり、郡山の一方的試合となる。（武田）

（郡山一主将・山沢健二）平凡なミスをなくし、確実に1点ずつ積み重ねていくことを目標にしましたが、45度の佐藤、古宮がよくシュートを決めてくれ、単調にならずにみんなで攻撃ができて良かった。ただ、声が出ていなかったこと、ルーズボールのカット処理がまずかったのは反省点です。

（紋別GK・三浦和美）全道大会で釧路鳥取中を破って全国大会に出てきましたが、相手はやはり強く、スピードがありました。がっちりやろう、守りをしっかりやろうと試合に臨んだのですが、速攻が巧くいかなかったのが残念です

▽2回戦

蓮田 20（9−10／11−7）17 岩出

	【岩出】	得	【蓮田】	得
GK	小林	0	糸井	0
GK	井上	0	村山	0
FP	倉沢	3	田中	0
FP	江川	0	喜古	0
FP	味村	2	山田	0
FP	田中	0	阿部	2
FP	藤永	7	石井	7
FP	浜野	5	宮原	3
FP	田野	0	渡辺	2
FP	富永	0	小山	0
FP	安田	0	須田	3
FP	壷井	0	水野	3
		17		20

（審・新橋、南場）

○…両チームともバランスのとれた好ゲームだが、前半、蓮田はパスミスから相手にリードを許したが、早い動きとパスワークでリードを保ちそのまま逃げ切った。（日原）

（蓮田主将・石井雅之）パスミスが少しあったこととこのコートが正規のものより横が1m足りないためにラインクロスがあったが、よく声が出ていたし、ディフェンスのカバーが良かったことが勝因だと思う。

（岩出GK・小林厚生）相手チームは動きが速く、コンビネーションがとても良かったです。自分たちはそのためにここという時に気がゆるんで、守れなかったのが良くなかった。

汐路 19（8−8／11−6）14 南星

	【南星】	得	【汐路】	得
GK	布橋	0	沖野	0
GK	越野	0	湯澤	0
FP	横本	0	平松	6
FP	岩崎	1	安藤	2
FP	杉沢	3	広田	3
FP	有沢	4	杉永	1
FP	吉村	2	佐藤	2
FP	宮本	3	加藤	5
FP	山本	1	矢代	0
FP	本定	0	竹内	0
FP	川辺	0	成田	0
FP	小泉	0	山田	0
		14		19

（審・浅野、武田）

○…汐路が相手のパスミスから速攻や平松の好パスなどで順調なスタートを切ったのに対し、南星は攻守に堅さがあり動きの悪い立ち上がりだった。その後、互いにシュートミスを連発し雑な展開となった。後半に入り南星は反撃に移ったが、大事な所でのミスや汐路のGK沖野の好守で最後まで追いつくことができなかった。（倉本）

（汐路GK・沖野孝佳）うれしい。キャプテンでチームの要の平松は良かった。（平松君はGKの沖野君に助けられたと互いに譲っていた）。ただ、ノーマークシュートを入れることができなかったのとパスミスがあったことは反省しなくてはいけないです。

（南星GK・布橋永吉）自分も精一杯やったが、汐路のキーパーが良かった。それと2番のキャプテンも巧かった。うちの杉沢も良かったけど、相手のスピードについていけなかった。汐路は楽にポンポンと上から打ってくるので、もっと回してから打つと良いのではないだろうか。

安慶田 24（13−7／11−10）17 大体大附属

	【大体大】	得	【安慶田】	得
GK	岩上	0	兼島	0
GK	山本	0	我喜屋	0
FP	西岡	6	安里	0
FP	武良	5	大湾	0
FP	植木	2	我如古	6
FP	山田	0	井口	3
FP	寺沢	1	伊礼	1
FP	西	0	渡久地	0
FP	永里	0	仲宗根	0
FP	前田	3	稲垣	0
FP	新井	0	神里	14
FP	中村	0	銘苅	0
		17		24

（審・林、佐藤）

○…両チームともスピーディな試合運びをし、特に安慶田の神里のスナップのきいたシュートは素晴らしいものがあった。また、GKもよく守りゲームを盛り上げた。一方、大体大附属は後半途中までよく粘ったが、ディフェンスに甘さが出たのが痛かった。（笹森）

（安慶田主将・我如古康彦）前半あがっていたが、何となく今日は練習の時からみんな盛り上がっていた。今日は絶対勝てると思っていた。相手の3番の選手の動きは素晴らしかった。

（大体大附属主将・西岡和彦）くやしい。相手の11番をマークでき

なかった。ロングシュートやノーマークのサイドシュートが入らなかった。

操南 17（9－6／8－7）13 郡山第一

得	【操南】		【郡山一】	得
0	門木	GK	山沢	0
0	岡村	GK	円井	0
0	稲田	FP	難波	1
1	久山	FP	秋葉	3
0	豊福	FP	佐藤文	7
4	松田	FP	古宮	2
3	道端康	FP	馬場	0
4	河合	FP	須田	0
0	村上	FP	池上	0
3	道端啓	FP	三浦	0
0	光井	FP	佐藤寺	0
2	藤沢	FP	小松	0
17		（審・日原、服部）		13

○…前半両チームともペースがつかめなかったが、12分過ぎ、操南に速攻、半速攻が出はじめてペースを握る。郡山も佐藤文のフェイントからのシュートで対抗する。後半に入って、入れたら返すという展開になるが、操南が前半のリードを生かして逃げ切った。（小島）

〔操南主将・松田宏〕全体的に元気がなく気迫も足りなかった。最初にせってしまったのもそのせいだ。うちのチームは、走ってボールを回していくことを得意としているので、次の試合もボールにくいついてがんばりたい。

〔郡山一主将・山沢健二〕やあ、強かった。相手の9番の45度のロングシュート等、ロングシュートにやられた。

▽準決勝

蓮田 17（6－9／11－7）16 汐路

得	【蓮田】		【汐路】	得
0	糸井	GK	沖野	0
0	村山	GK	湯浅	0
0	田中	FP	平松	6
0	喜古	FP	安藤	1
0	山田	FP	広田	3
1	阿部	FP	杉永	3
6	石井	FP	佐藤	2
1	宮原	FP	加藤	1
3	渡辺	FP	矢代	0
0	小山	FP	竹内	0
2	須田	FP	成田	0
4	水野	FP	山田	0
17		（審・新橋、南波）		16

○…後半4分まで汐路がリードして主導権を持った展開だったが後半蓮田のサイドシュートが決まり出し、最後に得たペナルティシュートを蓮田が決め、勝負が終わる。両チームともにスピードがあり、展開も早くレベルの高いゲームであった。

〔蓮田〕○6番石井…最高の気分。ペナルティは絶対に決めようと思った。○15番水野…昨年の準々決勝で逆転負けを喫していたので今年は是非勝ちたかった。前半シュートミスが目立ったが、試合では勝っていたと思う。○12番石井GK…2番平松のロングに気をつけ、ひっぱりに誘うように考えた。最後のPTでは、斉藤監督から右上のシュートを止めるように言われていたのがあたった。

〔汐路〕○1番沖野GK…精一杯やりました。何も言うことはありません。○7番加藤…くやしい。でも決勝では是非蓮田中に勝ってほしい。○2番主将・平松…これでスッキリした。蓮田中には是非優勝してほしい。

安慶田 22（12－6／10－15）21 操南

得	【安慶田】		【操南】	得
0	兼島	GK	門木	0
0	我喜屋	GK	岡村	0
2	安里	FP	稲田	0
0	大湾	FP	久山	2
3	我如古	FP	豊福	0
4	井口	FP	松田	4
0	伊礼	FP	道端康	1
3	渡久地	FP	河合	5
0	仲宗根	FP	村上	0
10	神里	FP	道端啓	8
0	銘苅	FP	光井	0
0	仲松	FP	藤沢	1
22		（審・山辺、小越）		21

○…安慶田・神里の動きを操南がどう封ずるかに興味が持たれたが、ディフェンスの詰めが甘く、前半はダブルスコアで終わる。しかし、操南も9番・道端を中心に後半よく攻めたが、前半の失点が大き過ぎて逆転するには至らなかった。最後まで粘り強く攻めた操南の健闘は大いに賞められる。（佐藤）

〔安慶田主将・我如古康彦〕2回戦ではみんな調子が良かったので準決勝でもいけるぞと思った。ゲームは前半の展開が思うようになり、みんなの意気も高かったが、後半になるとそれが気のゆるみにつながり、相手に苦戦する結果になった。特に、ノーマークシュートをはずしたり、オフェンスのチームプレーのバランスが雑になったことが苦戦の原因だと思う。

うちのチームは、もともと速攻が得意なので、明日の決勝は今までの試合のことは忘れて、練習の成果を十分に発揮してがんばりたいと思います。

〔操南監督・片山先生〕前半の終わりに得点されたのが、結果的には試合を決めたようだ。だが、後半残り5分頃からキャプテン松田がたて続けにシュートを決め、更にはGK門木が安慶田・神里のミドルシュートやPT2本を防ぎ試合を盛り上げたが遅かった。

自分たちの力があるのに相手に気おくれしたようだ。前半ダブルスコアになったので、ハーフにどんどん攻めていくように指示したので、後半は少しずつ発揮されたようだ。今のチーム内に2年生が多いので来年も来たい。

▽決勝

安慶田 21（12－7／9－10）17 蓮田

○…蓮田はローリングからのポストを速って、安慶田は遅攻からの意表をついたカットインで8分頃まで同点。

その後、安慶田・神里のロング、スタンディング、速攻で17分過ぎまでに12対5と開いてしまう。

蓮田得意のポストプレーもGK兼島の好守に得点できず12対7で

前半終了。

後半10分までに蓮田ポストプレー等で1点差に迫るもペナルティ、速攻とノーマークをミスして15分までに再び4点差。

その後、ペナルティ、速攻と3点差まで迫るも、再三の神里のシュートに再び離されて、21対17で、安慶田が初出場で優勝を決める。（山辺）



初の優勝を決めた安慶田中のメンバー

得	【安慶田】		【蓮田】	得
0	兼島	GK	糸井	0
0	我喜屋	GK	村山	0
0	金城	FP	田中	0
0	安里	FP	喜古	0
0	大湾	FP	山田	0
4	我如古	FP	阿部	3
2	井口	FP	石井	6
3	伊礼	FP	宮原	2
1	渡久地	（審・新橋 南波）	渡辺	2
0	仲宗根		小山	0
0	稲福		須田	2
11	神里		水野	2
21				17

＜学校紹介＞

○沖縄市立安慶田中学（沖縄県）

沖縄市は沖縄本島の中心部に位置し人口10万人の町で、今から10年前東洋一の米国空軍基地嘉手納飛行場をかかえた基地の町として栄えたコザ市と美里村とが合併して現在の沖縄市となり、最近では観光の町へと発達しつつある。昭和62年の国民体育大会の夏の主会場にも決まり10万人市民も日本各県からの選手団を心から歓迎するため、その準備に取組み人口もふえつつある。その中で市の中心に本校安慶田中学校も創立3年目を迎えた新設校で、教科教室制の特色ある学校で生徒が教科の教室に毎時間移動して授業をする。県内でも数少ないシステムの学校で、沖縄県がこれからの学校施設のモデルにするという考えで設計がなされている。

ハンドボール部員数が男62名、女20名で計82名である。3年計画のチームで去年県中体連の大会で初のベスト4へ進出し、生徒が自信をもって練習に打ちこむようになった。

年間試合数150試合。

○蓮田市立蓮田中学（埼玉県）

蓮田市は都内までは電車で40分以内で行くことのできるベットタウンとしては大変便利な街です。36年の歴史をもつ蓮田中学校は非常に部活動が盛んです。陸上部や野球部は県内でもかなり優秀な成績を収めています。

我々ハンドボール部では全国ベスト4、ベスト8に1回ずつ入ったことがあります。なぜそのような好成績を収められるのかというと、かなり優秀なOB（川口工、川口高出身者etc）が毎週日曜日に練習に参加してくれるからです。また、ハンドボール部の大きな特徴として、スキンシップの場が多いということをあげることができます。それに、卒業生の活動もかなり活発です。といった具合に、蓮田中ハンドボール部で3年間学んだことはひとりひとりの将来に大きな影響を与えています。

◎女子

▽1回戦

寺井（石川）29（15−3, 14−5）8 安慶田（沖縄）

	【寺井】	得	【安慶田】	得
GK	東方	0	比嘉（真）	0
GK	山口（和）	0	岳原	0
FP	谷口	2	松田	0
FP	吉田	1	兼本	0
FP	杉本	3	仲宗根	0
FP	東出	5	香村	0
FP	北川	8	照屋	0
FP	山口（幸）	3	比嘉（[illegible]）	5
FP	宮本（照）	5	宇良	0
FP	西井	0	古田	3
FP	宮本（由）	1	宮國	0
FP	森	1	安里	0
		29		8

（審・宮崎・倉本）

○…寺井はパスワークに確実性が見られ、選手それぞれの動きが良い。また、走り込みによるシュートが素晴らしかった。ただディフェンスにまわった時のラフプレーが目立ったのが残念である。安慶田はゴールポストに当たったシュートが多数あり、この点がとても残念であった。寺井に対して攻めあぐみが見られた。今一歩力を出しきれていなかったようだ。（笹森）

（寺井主将・谷口智子）後半に入って気が緩んだのと左からのためのあるジャンプシュートを押さえられなかったのは失敗だった。でもみんなよくがんばり、上と下のコンビはとても良かったです。

（安慶田GK・比嘉由美）内容としては悪い試合ではなかったが、とても相手の動きが速く、ついていくのが大変だった。2年生が中心のチームなので、来年に期待したいです。

吹上（栃木）13（5−5, 8−7）12 緑ケ丘（奈良）

	【緑ケ丘】	得	【吹上】	得
GK	清水	0	青木	0
GK			中村	0
FP	麻宮	0	神長	5
FP	石原	5	松沼	3
FP	小川	1	癸生川	0
FP	幸田	0	大橋	0
FP	谷口	1	牛久	4
FP	埜田	4	増山	1
FP	己波	0	大河原	0
FP	福田	0	玉田	0
FP	鷲頭	1	臼井	0
FP			石田	0
		12		13

（審・服部・日原）

○…前半一進一退で5対5で終了。後半に入ってから緑ケ丘がリードしてゲームが進むが、最後に吹上がシュートして決まる。（田中）

（吹上主将・松沼早苗）セット、ロングからの得点が得意だが、特にロングが決って良かった。でも相手はブロックが巧く、そこにひっかかってしまった。バレーボール全国大会で寺井中に負けているので、2回戦では弔い合戦をしたい。

（緑ケ丘GK・清水須美代）とてもしんどかった。シュートにかなり威力があり、体が大きかった。つめることが目標だったが、できてない面があった。

西笹川（三重）17（9−4, 8−4）8 光洋（香川）

	【光洋】	得	【西笹川】	得
GK	鎌田	0	重岡	0
GK	今村	0	朝井	0
FP	福崎	0	向井	7
FP	木村	7	永峰	4
FP	光家	0	竹内（晴）	0
FP	阿部	0	高橋	5
FP	実川	1	竹内（友）	0
FP	山本	0	中村	0
FP	内田	0	柴田	0
FP	西	0	菊川	0
FP	広山	0	三宅	1
FP	坂木	0	柘植	0
		8		17

（審・宮崎・倉本）

○…光洋・木村のシュートで先制も西笹川は向井を中心に速攻で点差を開き、余裕のある試合運びで快勝した。光洋も木村を中心によく攻めたが、走力、パスワークともに西笹川に一日の長があった。両チームともにディフェンスが荒く、PTの多い試合となった。（佐藤）

（西笹川主将・向井麻里子）試合に出場できるのは最後なので気迫でがんばった。先生もそうおっしゃっていた。相手チームに168㎝の大きい選手がいたので緊張したが勝つことができてうれしかった。みんなで声を出し合ったのが良かったのだと思う。

（光洋）GKの鎌田香さんは、ペナルティをとることができなかったし、集中力に欠けてしまったと反省するが、監督の松井先生は、「昨年のチームは3年間かけてレベルアップをはかったのに、今年のチームは1年間でここまでもってこなければならなかった。実力を出しきれなかったことは残念であったが、厳しい練習に良くついて来てくれたと感謝している。来年は1回戦突破を目ざしたい」と生徒を励ましておられた。

比治山女（広島）27（12−2, 15−0）2 青葉（北海道）

	【比治山】	得	【青葉】	得
GK	木村	0	福田	0
GK			酒井	0
FP	吉田（五）	7	物井	0
FP	三谷	8	柿本	0
FP	吉田（早）	4	佐藤	0
FP	吉野	5	斉藤	0
FP	志多木	1	川上	0
FP	岡村	2	滝沢	1
FP			菊池	0
FP			岸	0
FP			田川	0
FP			沢田	1
		27		2

（審・日原・服部）

○…青葉は前半の2点のみの得点で、攻撃のリズムがあわぬままゲームが終わる。比治山女子は、パスカットからの速攻を中心に一方的なゲームであった。（田中）

（比治山女主将・吉田五月）みんなの力を合わせて勝った。チームの人数は少ないけれどチームワークの良さで勝ってきた。

（青葉GK・福岡ルリ子）今までの成果を出すことができなかった。速攻を止めることができなくて残念だ。また、チームも足をいかす攻撃ができなかったので、これからは速攻を中心に練習していきたい。

小杉（富山）18（9−5, 9−6）11 鶴城（熊本）

	【鶴城】	得	【小杉】	得
GK	岡崎	0	山内	0
GK	平田	0	中村	0
FP	芦田	0	四方	0
FP	土本	2	谷道（加）	0
FP	光永	1	林	15
FP	上田	0	谷道（亜）	0
FP	吉田	0	片岡	1
FP	園田	0	土合	0
FP	中山	8	江尻	2
FP	山下	0	倉田	0
FP	上田	0	山内	0
FP			大垣	0
		11		18

（審・浅野・武田）

○…小杉・林、鶴城・中山の両エースの打ち合いで始まり、13分過ぎまでシーソーゲームを展開。しかし、小杉のエース林の活躍で点差を広げ前半を9対5で終了。後半に入り、鶴城はディフェンスの甘さをつかれて徐々に引き離される。特に、小杉・林の活躍が目立った。（佐藤）

（小杉主将・林智恵）1人1人が声を出し、相手の声もよく聞こえたところが良かった。また、攻めのディフェンスができたところが勝ちにつながったと思う。相手は昨年の準優勝校だったけど、みんなで伸び伸びとプレーし、自分たちのプレーをできたところが良かった。

（鶴城）絶対優勝しないと試合前の取材の時ははりきっていまし

たが、接戦の末敗れた時は全員が涙を流しくやしがっていました。また来年元気で出場してきて下さい。

住吉（山口）12（6－7 6－4）11 汐路（愛知）

【汐路】	得		【住吉】	得
勝俣	0	GK	岸田	0
土清水	0	GK	中嶋	0
葛島	6	FP	高木	0
川崎	2	FP	上田	2
伊豫田	3	FP	和田	2
那須	0	FP	貞本	7
青地	0	FP	西田	0
中島	0	FP	宮本	0
松岡	0	FP	東	0
陸	0	FP	川井	1
松下	0	FP	福田	0
板倉	0	FP	河村	0
	11			12

（審・小松 小越）

○…前・後半とも汐路が先制、住吉が追いかけるパターンで一進一退の好ゲームとなる。残り30秒住吉・貞本のまわり込みからのサイドシュートで住吉がふり切った。汐路は速い攻撃にいまひとつリズムに乗れなかった。（小島）

（住吉主将・西田安子）汐路はフェイントのパスでくるので、ポストマンをはなさないようにしたが前半ディフェンスが弱く、リードされてしまった。でも後半走って声出してがんばった。負けるかと思ったが、根性で勝った。

（汐路GK・葛島寿美子）先輩たちへの恩返しとみんなの足をひっぱらないようにとがんばったが、チェックが足りなかったところが敗因のようでした。

新東淀（大阪）20（8－5 12－3）8 釧路鳥取（北海道）

【新東淀】	得		【釧路】	得
吉田	0	GK	古村	0
高山	0	GK	大門	0
加々良	0	FP	早坂	2
内藤	4	FP	中村	1
鹿島	10	FP	高井	3
田平	0	FP	及川	0
城戸	0	FP	重野	0
西村	4	FP	長谷川	0
岩下	2	FP	樋口	0
横山	0	FP	野坊戸	2
石川	0	FP	加賀谷	0
大迫	0	FP	黒井	0
	20			8

（審・武田 浅野）

○…立ち上がり両チームとも固さが目立ちイージーミスの連続であったが、新東淀は2分40秒に4番のミドルシュートが決ってからは、得意の速攻プレーをたて続けにくり出し加点した。一方の釧路鳥取はローリングからのカット、ステップシュート等で加点し、前半を8－5で新東淀リードで終了。後半に入り、新東淀は4番のロングシュート、速攻からのサイドシュートとたて続けに得点をあげ、一方的なゲームとなった。一方の鳥取は新東淀の激しいディフェンスにとまどい、ときおり打つ2番のステップシュートのみで完敗であった。（内田）

（新東淀）主将の内藤国美さんは「ディフェンスが悪かった」と目を赤くし、監督の大槻先生は「試合開始直後のノーマークシュートをはずしてしまったことがひびいて固くなってしまった」と厳しく反省しておられたが、明日の試合をにらんで作戦を胸に秘めておられるようであった。

（鳥取GK・吉村香織）最初はみんなやる気があって勝てると思ったけど、45度の人が足を負傷してしまったことが痛かった。1年生のときから毎日練習をしてきたのでくやしい。

岩崎（神奈川）20（11－4 9－2）6 泉（福島）

【岩崎】	得		【泉】	得
佐藤	0	GK	根本	0
矢沢	0	GK	江尻	0
加藤	1	FP	村上	3
世田	3	FP	大和田	0
中村	6	FP	上遠野	1
島崎	4	FP	小泉	1
児玉	3	FP	生田目	0
長谷川	2	FP	吉田 裕	0
柳原	1	FP	吉田 里	0
土谷	0	FP	坪井	0
河野	0	FP	佐藤	0
加古川	0	FP	上遠野	1
	20			6

（審・小松 小越）

○…泉の先取点で始まったが、泉にミスが目立ち、ミスをついて岩崎が速攻、半速攻で着々と加点し、セットでは岩崎の速い動きに泉のディフェンスがついていけなかった。後半立ち上がり岩崎6番がマンツーマンされ一時追い上げられるが、岩崎の動きが泉を上回り差を開いた。（小島）

（岩崎主将・中村好子）ディフェンスが甘く、動き回る自分たちのプレーを発揮できなかった。また、ひとりがマークされると全員であわてたことを反省したい。

（泉GK・根本康代）試合開始とともに完全に雰囲気にのまれてしまった。泉はメンバーが明るいのにそれを出すことができなかった。もっと足を使って来年は是非1勝したい。

▽2回戦

寺井 22（12－4 10－4）8 吹上

【吹上】	得		【寺井】	得
青木 富	0	GK	東方	0
中村	0	GK	山口 順	0
神長	4	FP	谷口	1
松沼	1	FP	吉田	1
癸生川	0	FP	杉本	4
大橋	1	FP	東出	4
牛久	1	FP	比川	10
増山	1	FP	山口 幸	1
大河原	0	FP	宮本 昭	1
玉田	0	FP	西林	0
臼井	0	FP	中川	0
青木 澄	0	FP	宮本 由	0
	8			22

（審・小松 小越）

○…早朝のためか両チームとも立ち上がりにパス、キャッチミスが目立ち、体の動きの方にも今一歩きれがなかった。途中から寺井が速攻を生かした攻撃に転じ優位に立った。一方吹上は今一歩リズムに乗り切れず、それが最後までひびいてしまった。（笹森）

（寺井主将・谷口智子）トッププレーヤーの2人を押さえようと思っていたが、ディフェンス主体のチームとして特色を出しきれなかった。自分たちのプレーになっていなかった。

（吹上監督・田中敏雄）相手にどこまでくいついて行くかが勝負どころだと思った。結果は負けたが選手ひとりひとりはよくがんばった。ロングシュートが途中でカットされてしまった。（主将・松沼

早苗）とても疲れたが自分の力が出しきれたので満足している。

西笹川 23（10－1, 13－5）6 比治山女

【西笹川】	得		【比治山】	得
重岡	0	GK	木村	0
朝井	0	GK		
向井	6	FP	吉田（五）	5
永峰	4	FP	三谷	1
竹内（晴）	1	FP	吉田（早）	0
高橋	8	FP	吉野	0
竹内（友）	0	FP	志多木	0
中村	2	FP	岡村	0
柴田	0	FP		
菊川	0	FP		
三宅	2	FP		
柘植	0	FP		
	23	（審・林・佐藤）		6

○…前半はセットの攻防となるが、西笹川はボールを止めることなくサイドへボールを回し展開する。ディフェンスにおいてもつめが速く、比治山は足が止まりパスが通らず一方的なゲームとなる。（田中）

（西笹川）ゲーム前にはみんなでディフェンスをしっかりやろうと話し合った。結果的には、自分たちのチームの特長である速攻主体の攻めがうまくいき勝つことができたが、ディフェンスはまだまだだ。

（比治山女子）相手のディフェンスが大変良かった。シュートミスやパスミスが出てしまった。メンバーの交代が広島を出発する前にあったので、フォーメーションを使えず個人プレーになってしまった。そのため足が思うように使えず自分たちのゲームができずに完敗してしまった。

小杉 10（6－5, 4－4）9 住吉

【小杉】	得		【住吉】	得
山内（裕）	0	GK	岸田	0
中村	0	GK	中嶋	0
四方	3	FP	橋本	0
谷道（加）	1	FP	上田	0
林	5	FP	和田	1
谷道（亜）	0	FP	貞本	4
片岡	0	FP	西田	1
土合	1	FP	宮本	0
江尻	0	FP	東	0
倉田	0	FP	川井	3
山内（久）	0	FP	福田	0
大垣	0	FP	河村	0
	10	（審・内田・真田）		9

○…両チームともにディフェンスが固くなかなかチャンスがつかめない。小杉は走り込みからの速い動き、住吉はフォーメーションプレーで対抗する。住吉再三ノーマークをつくるが、小杉GKに阻まれた。（小島）

（小杉主将・林智恵）思ったような試合はできなかった。ディフェンスがよくなかった。試合前は相手のフォーメーションに気をつけたいと思っていた。今日は昨日よりも調子が悪いので、みんなで力を合わせて戦いたい。

（住吉GK・岸田一恵）4番の林選手を注意していたけれど……、ディフェンスの堅いチームだけにとてもくやしい。もっとボールにくいついていくようにプレーすればよかった。

岩崎 19（8－3, 11－6）9 新東淀

○…岩崎の早い動きに新東淀のディフェンスがふられ、岩崎・児

【岩崎】	得		【新東淀】	得
佐藤	0	GK	吉田	0
矢沢	0	GK	高山	0
加藤	0	FP	加々良	0
世田	2	FP	内藤	1
中村	9	FP	鹿島	6
島崎	0	FP	田平	0
児玉	7	FP	城戸	0
長谷川	1	FP	西村	1
柳原	0	FP	岩下	1
土谷	0	FP	横山	0
河野	0	FP	石川	0
加古川	0	FP	大迫	0
	19	（審・田中・萩原）		9

玉、中村のカットインプレーで得点、前半を終わる。後半に入り、攻守ともリズムが出てきた岩崎の一方的ゲームであった。（小越）

（岩崎）自分たちの練習の成果を出せるようにがんばろうと考えた。前半はなかなかペースがつかめずあせったが、後半はうまく攻撃できるようになった。

（新東淀）ディフェンスが相手にかき回されてしまった。しかし、自分たちのプレーはできていたと思う。相手は攻撃が早くそれについていけなかった。

▽準決勝

寺井 22（12－2, 10－3）5 西笹川

【西笹川】	得		【寺井】	得
重岡	0	GK	東方	0
朝井	0	GK	山口（眞）	0
向井	2	FP	谷口	0
永峰	1	FP	吉田	0
竹内（晴）	0	FP	松本	1
高橋	1	FP	東出	9
竹内（友）	0	FP	北川	8
中村	1	FP	山口（幸）	3
柴田	0	FP	宮本（昭）	1
菊川	0	FP	西井	0
三宅	0	FP	宮本（由）	0
柘植	0	FP	森	0
	5	（審・宮崎・倉本）		22

○…攻守ともバランスのとれた寺井に対し西笹川は攻撃が単調なためミスが続き加点される。寺井・北川、東出は攻守ともによく活躍した。（松）

（寺井）ディフェンスでしっかりと守り、そこから攻めていきノーマークシュートをつくるという自分たちのプレーができたと思う。先生からも立ち上がり5分が勝負だと言われていたので、前半はがんばった。時々気を抜いて上から攻められていたので、次の試合は気をつけたい。

（西笹川）相手のペースにはまってしまい、自分たちのゲームができなかった。ディフェンスの動きが悪く、動きがバラバラになってしまったところを相手の速い動きにつけ込まれて、得点を許すケースが多く、じりじりと離された。その点ではキーパーに助けられる場面が多く、声も出なかったことが大きな敗因だと思ってます。

小杉 12（5－8, 7－3）11 岩崎

【小杉】	得		【岩崎】	得
山内（裕）	0	GK	佐藤	0
中村	0	GK	矢沢	0
四方	1	FP	加藤	0
谷道（加）	1	FP	世田	2
林	8	FP	中村	6
谷道（亜）	0	FP	島崎	1
片岡	1	FP	児玉	2
土合	1	FP	長谷川	0
江尻	0	FP	柳原	0
倉田	0	FP	土谷	0
山内（久）	0	FP	河野	0
大垣	0	FP	加古川	0
	12	（審・浅野・武田）		11

○…小杉は前半から速攻で岩崎ゴールを攻め、守りに回ってもディフェンスがよくまとまり、なかなか岩崎にゴールをわらせなかった。一時両チームとも攻めあえぎ膠着状態がつづいた。岩崎はゴールポストに当たったりして不運であったが、後半足を使った攻撃も出、動きも良くなってきたが、あと1点で惜しくも涙を飲んだ。(笹森)

〔小杉主将・林智恵〕うれしいです。でもサイドシュートが思うように決まりませんでした。明日は声を出し、今までのものを全部ゲームにぶつけていきます。

〔小杉監督・大房恵美子先生〕いつもの調子が出ず悪い面ばかりが目についたゲーム運びとなった。特にディフェンスが消極的になりつぶしが簡単であった。中学生はハンドボールを知らず、基本を知っているチームが強かった。

〔岩崎GK・佐藤由美〕試合前はみんなの足をひっぱらないようにやりたいと思っていた。普段は前半からどんどん攻めていくチームなのに、今日は立ち上がりから遅れて点差が開いてしまったことが後々までひびいてしまった。でも4点の差をつけられたのに追い上げることができたのはよかったと思う。思いました。

〔岩崎・森田幸江コーチ〕選手は持てる力を出しきった。

▽決勝

寺井 16 (9－3 / 7－7) 10 小杉

得	【寺井】		【小杉】	得
0	東方	GK	山内裕	0
0	山口摂	GK	中村	0
1	谷口	FP	四方	0
0	吉田	FP	谷道加	0
2	杉本	FP	林	9
2	東出	FP	谷道亜	1
8	北川	FP	片岡	0
1	山口寺	(審・浅野・武田)	土合	0
2	宮本明		江尻	0
0	西井		倉田	0
0	宮本由		山内久	0
0	森		大垣	0
16				10

○…序盤、小杉・林、寺井・北川の打ち合いで試合も前半8分過ぎに小杉GKのパスを宮本がカット、ゴールも決まり同点にした後にわかに寺井の動きが良くなり、一方的に押しまくって前半を終了。小杉も林にボールを集めて応戦するが、前半の失点があまりにも大き過ぎた。特に、冷静なボール回しで小杉のディフェンスを揺さぶった寺井・北川の活躍が光った。攻撃での多彩さが勝敗を分けたと言えよう。(佐藤)

〈学校紹介〉

○寺井町立寺井中学(石川県)

寺井町は石川県の南の方にある人口1万3千人の町です。伝統産業の九谷焼を中心として石川の産業、交通の要所として繁栄しています。また、町ぐるみでスポーツ向上を目ざしています。その町のただ一つの中学である寺井中学は進学率も高く、スポーツ文化にも大変活発な学校です。このハンドボールも全国大会ベスト8に進出しました。

このハンドボール部は48年に創部、53年より56年まで連続出場、55年は準優勝でした。昨年全国優勝した芦城中に敗れ全国大会参加はできませんでしたが、今年は県大会、北信越大会と勝ち進んでようやくここまできました。

○小杉町立小杉中学(富山県)

小杉町は東に立山連峰を仰ぎ、富山県の中心に位置する緑に囲まれた人口2万8千人の町である。富山高岡市のベッドタウンとして北陸最大の団地を持っている。古くから薬の町として知られ、近年は研究都市を目ざしている。県民一スポーツを目ざすスローガンにのっとって町民あげてスポーツに取り組んでいる。一町一中学の我中学は千4百人余りの大規模校で部活動は盛んである。柔道は全国大会12回出場、2回全国制覇、また、相撲、バレーなどの活躍も目ざましい。

ハンドボール部創立は古く、特に力をつけてきたのは4年前からである。56年度全国大会出場、57年度準優勝を果たしている。練習は毎日2時間勉強とスポーツの両立を目ざし考えるハンドボールをしようとがんばっている。



優勝戦寺井中—小杉中の熱戦

中学大会雑感

夢をふくらませた熱戦

多かった接戦

秋の薫り漂う北海道札幌市中島体育センター別館で、第12回全国中学校選抜大会が8月22日から24日まで開催された。

男子は沖縄県の安慶田中、女子は石川県の寺井中がそれぞれ初優勝を遂げた。年々大会は充実を増し、日本のハンドボールの将来に大きな夢をふくらませてくれる。多くの関係者の努力がやがて頂点高く、そして裾野を広げて、人々の注目を集める大きな山になり、いつの日か人気スポーツの仲間入りする日が近い将来に来るのではないかとこの大会を見て感じさせられた。指導者の先生方の熱い目差し、懸命にボールを追う少年、少女、良き理解者である父母の必死の応援、そして大会を運営する役員諸氏の真剣に取り組む姿を目の当たりに見て、関係者の一人として大いに勇気づけられた。

試合は接戦が多く、特に男子準決勝の蓮田対汐路、安慶田対操南の2試合は、いずれも1点差の勝負で館内を沸かせた。また、女子も1回戦で住吉対汐路、吹上対緑ケ丘、2回戦で小杉対住吉、準決勝で小杉対岩崎戦と1点差の大接戦の末、明暗を分けた。

男子優勝の沖縄の安慶田中は、非常に安定した試合運びで、準決勝の操南中戦以外は全く危げなく勝ち抜いた。2位になった蓮田中、昨年の緻密でフォーメーション的な早いリズムの攻撃に、今年はいまひとつスローダウンする攻めを加えて、強敵汐路に昨年の雪辱を遂げた。年毎に選手たちに合うチーム作りは理想的な指導であり、大変立派だった。また、準決勝で敗れはしたが、昨年決勝に進出し、多彩な技を見せてくれた愛知の汐路は、今年も元気一杯で健闘したが、昨年ほどの決定打がなく準決勝で涙をのんだ。また、岡山県の操南中もよく纏まったチームで、安慶田を準決勝で苦しめ、優勝できる力を十分持ち備えていたと思う。来年に期待したい。その他にも多くのチームが技術的に優れていた。

一方女子は、石川県の寺井中が合理的な攻撃を巧みな守備の連繋で他の追随を許さなかった。特に、攻撃において、ミドルシュート、ポストのコンビ、それにカットインを加えたオフェンスは見事だった。

昨年に引き続き準優勝に終った小杉中は、順調に勝ち進んだが、決勝戦でやや積極性を欠く攻撃がみられたのは残念だった。しかし、中学女子を2年連続準優勝に導いたのは立派であり、容易な技ではない。その他にも準決勝で小杉を苦しめた神奈川の岩崎中、3位に入賞した三重の西笹川中、2回戦で小杉中に1点差で敗れた住吉中、愛知の汐路中などが印象に残った。

超中学の神里(男)と林(女)

個人的には、多くの名選手揃いで、男子では、まず安慶田の神里君が抜群の力を発揮し、中学生離れの技が随処にみられた。試合展開の読みの早さ、臨機応変の攻撃、特にシュート力で、スナップシュートの早さ、空間で判断するかのようにクィック、ための打ち分け、スカイシュート、ループシュートと何んでもこなし、フェイントの技術も超一流、一人を抜き、次のディフェンスに対して、また続けて掛ける素晴らしさ、ピンチになっても、焦ることなく、堂々とマイペースで試合を運ぶ精神的な強さもあり、もちろん、良い意味で末恐しい選手だ。

また、準優勝の原動力となった蓮田中の石井君、マンツーマンをものともせず果敢に攻めた南星中の杉沢君、汐路の長身のフローター平松君、岡山操南中の道端君、1回戦で敗退はしたが、1試合で12点をあげた富岡中の富田君などが目立っていた。

女子も多くの長身選手が大活躍をした。まず小杉の林さんで、4試合で37点をたたき出す活躍、173㎝の長身から操り出すシュートは、もはや中学生のプレーではない。早いうちに全日本ジュニアにでも入れて鍛えあげたら日本を代表する選手に成長するのではないかと思う。正に大器である。

その他にも良くハンドボールを理解していた寺井中のエース北川さん、吹上中の神長さん、汐路中の葛島さん、鶴城中の中山さん、寺井中のもう一人、東出さん、大阪新淀中の鹿島さん、光洋中の木村さん、岩崎中の中村さん、住吉中の貞本さんなどが特に光っていた。

いち早く指導体系の確立を

最近中学大会の内容は、勝利のみを目ざすために技の指導が先になり、策や高度の技術に溺れているのではないか、もっと基本に戻れという話を耳にする。確かに高校生にも優るとも劣らぬプレーをする、バックパス、ラテラルパス、ループシュート、スカイと多彩である。攻撃パターンを型にはめ過ぎではないかと感じられる点もあった。しかし、中学生とは言っても身長もあり、手も大きい。二号ボールでは自由自在に扱うことができるので自ずから個人技能は高められるだろう。「基本プレーとは」これは一口には言えないだろうが、ただ中学でも、高校でも同じ練習を反復しているとなるとこれは問題ではなかろうか。ましてや日本のハンドボールの練習がみな同じとなると大変な間違いが起ってくる。そんな馬鹿なことはない筈だが、心配なのは、練習の段階を跳び越して高度な練習を急いではいないか、ということである。選手が成長するには、必ず段階があって、それを一つ一つ踏んで行く必要があるのはここで言うまでもないことである。このようなことを考えるといち早く日本の指導体系を確立しなければならない時にあると思う。

中学では絶対にこれはマスターし、高校ではこれという段階的に解説する教程書が必要なのだ。そうすることが特に世界に通じる選手を養成するにあたって最も大切であると思うのは私一人ではない筈である。関係者の努力でこれだけ盛りあがってきた大会を見て、なお一層、この気持を強くさせられた。

(川上整司)

特別手記　第12回全国中学校ハンドボール大会に優勝して

男子

3年で夢が実現した感激

沖縄県沖縄市立安慶田中学校

比嘉和直

56年の新設校で部員募集

沖縄市立安慶田中学校は、昭和56年4月沖縄市立越来中学校から分離し、在籍七百名余の中規模校としてスタートされました。安慶田中学校は沖縄県本島の中部に位置しています。一昨年全国制覇を果たした神森中学校がある那覇地区に比較し、ハンドボール熱よりも、むしろ、バレーボール、バスケットボールのさかんな地区です。私は昭和50年から越来中学校のハンドボールの指導をしていましたが、過去5ヵ年間、神森中学校の厚い壁にはばまれ敗退をしていました。「一度は全国大会出場」をという夢を胸に、新設安慶田中学校に赴任しても、是非ハンドボール部を設置、ひそかな夢の実現を達成すべく部員確保に努めました。

その努力が報われて、2年生1名、1年生37名の生徒が安慶田中学校ハンドボール部の一員として集まり、安慶田中学校ハンドボール部が設置されました。ほぼ全員が1年生であり、ハンドボールの指導をいかにするか苦慮しましたが、まず部員に、ハンドボールの興味づけと、特性を知ってもらうために、近隣の中学校や高校生の練習風景、練習試合を観せていきました。

いつごろからか、部員の一人一人の中からハンドボールは「楽しい、やれる」という気運が高まってきましたが、いざグラウンドで練習となると、肝心のゴールポスト、ボール、ハンドボールコートが不十分で、思うように練習ができず、部員の意欲を損ねることもありました。

そこでハンドボールのやれる環境を一日も早く整備することを学校長、教育委員会、父母に請願し、そのかたわら、部員自らの労力でコート整備に費やされる時間もありました、一向に整備されないコートに部員が不安に思い、退部していく部員もありましたが、ほとんどの部員は辛抱強く部活動を続けました。

昭和55年5月の下旬に、ゴムボール3個の寄贈と念願のゴールポストが搬入され、今まで不安に思いつつ練習もなまけがちだった部員も、意欲的に練習に取り組むようになりました。近隣の越来中学校1年生との練習試合も計画しましたが、練習不足で負ける結果となりましたが、しかし部員の中から夏休みの合宿、砂浜でのランニング等の意欲的な練習計画が提案され、それを受けて、場所をかえ、方法をかえたきびしい練習を積んで長期休暇があっという間に過ぎました。

その効果をためすべく、期待と不安の中で秋季大会に参加しましたが残念ながらその成果は表われず、1回戦で敗退してしまいました。

そこで、これまでの練習方法をふりかえり反省の上に立って、高校生との練習試合を多く経験させて、場に応じた細かいルールを知らせ、ゲームにおける展開能力の向上を主目的に「ゲームトレーニング」の練習方法を取り入れてきました。

その成果は日増しに表われて、今まで相手になりえなかったチームとの練習試合でも接戦を演ずることができるまでに成長していきました。

新人戦ベスト8で勝つ意欲

まだまだ1年生であり、公式の大会でどの程度実力が発揮できるか、不安を抱きながらの新人戦に挑みました。ゲームトレーニングの成果はみごとに発揮され、1年生チームでありながら、ベストエイトまで進出することができました。その自信を基に、部員は日増しに、意欲的に練習を重ね、精神面、

体力面でも1年先輩の他チームに肩を並べるようになりました。

「勝ちたい、勝てるかもしれない」という部員の熱意で、それからの日々は充実した練習ができましたが、ベストフォアへの壁は厚く、勝てないまま月日が過ぎ、2年生へと進級しました。ベストフォアへの壁にぶつかり悩んでいた頃、高校生中部リーグの強化試合が行なわれ、その大会に特別に参加することを認められ、そのチャンスに、高校生の大会でみごと一勝をする好成績を納め、勝利を実感した部員の意欲は頼もしいほど高まり、その貴重な体験を中体連の大会でみごと発揮して、念願のベストフォア進出を果たすことができました。

その大会の準決勝戦は優勝した小禄中学校チームに2点差にせまる大接戦であり、多くの自信を得ることができました。

その後の秋季大会にも、決勝で全国大会出場の小禄中学校に逆転負けをし、新たな練習方法を余儀なくされました。しかし部員の意欲と自信は高く、技術面、精神面の注意に耳を傾け、積極的な練習が毎日続けられました。

多摩中との練習試合で2勝

新たな練習方法をみい出すことができないままに、年明けの新人戦を迎えましたが、これまで1年先輩と公式戦をやってきた自信は強く、他チームを圧倒して優勝をすることができました。その時点で部員と今後のチームのあり方、目標について相談をし、新たな練習方法を導入しました。

これまでは、速攻中心で個人技能を中心に練習をしていましたが、ディフェンスの強化と組織だった全員速攻のできるチームをめざしていくようになり、一日のランニングの距離を10キロとし、筋力トレーニングを日課に加えました。

それらの練習を進めていた途中の3月下旬、来沖した東京都の多摩中学校との練習試合が計画されました。多摩中学校の監督の先生は以前全国大会で優勝経験のある方で、練習試合の内容によってはおよそ判断できると思い、その試合に向けて、いい機会なので頑張るようにと部員を励ましました。

その試合の結果、2戦2勝と、部員はもちろん、顧問の私もおどろく好成績を納め、夢にまでみた、九州、全国大会へのキップを手中に納めた錯覚さえおこし、夜も十分に寝つかれないほどに喜びました。

その後の練習は、その夢の実現を果たすべく、練習時間を1日4時間に延ばし、ときには夜間練習も入れ、高校生との交流試合を「百回目標」とし目標達成に向けて練習を積み重ねました。その結果今年の新人戦以降の全ての大会で、ダブルスコアーの得点で他チームに圧勝することができるまでにチームは成長していました。

3年目での優勝の幸運

九州大会派遣をかけての、県中体連総体の決勝でも、その実力は十分に発揮され、みごと優勝をすることができました。その調子で実力が出せたら九州制覇も「夢ではないぞ」と部員を励まし、8月10、11日に佐賀県で行なわれた九州大会でみごと九州制覇を成し遂げました。

全国大会でも精神的なプレッシャーもなくプレーし、念願の全国制覇を成し遂げました。学校創立3年目、部設置3年目にして、中学校ハンドボール日本一の座につけたのはほんとうに幸運でありました。それも部員一人一人がよく自覚し、きびしいトレーニングにも向上心をもってぶつかり、「勝ちたい」という顧問の気持ちと一体になったこと、と父母の協力、学校の協力、また県ハンドボール協会の物心両面からの協力があって達成されたものと深く感謝しています。これからも今まで以上に練習を積み、再度の栄冠をめざして頑張りたいと部員ともども決意をあらたにしています。

最後に九州大会、全国大会において、多勢のハンドボール関係の諸指導者の方々にお世話いただきましたことを深く感謝し、お礼を申し上げたいと思います。



特別手記　第12回全国中学校ハンドボール大会に優勝して

苦節11年、先輩、現役一丸のV

石川県能美郡寺井町立寺井中学校

井川邦彦

私とハンドボールとの出会い

大学（富山）に入学し、中学、高校と続けていた陸上競技と縁を切り、チームゲームであるハンドボール部に入部しました。なんとスピーディな、スタミナのいるスポーツだろうというのが4年間の現役（といえるかどうか？）時代の思いでした。ほんの少しかじった程度のハンドボールでしたが、どうにもやみつきになり、現在に至っている次第です。

ハンドボールは取り組めば取り組む程、なんと難しい、また奥深い競技なんだと思わざるを得ないというのが現在の心境です。

大学卒業後、最初の勤務地は小学校でした。若くてエネルギーが余っていることもあり、小松市の丸内中にコーチに出掛けることになりました。幸運にも、記念すべき第1回大会（愛知）への出場という経験をすることができました。このことが自分のチームを持ちたいという強い思いになっていったのだと思います。2年間の小学校勤務後、母校寺井中学校に勤務することになりました。昭和48年のことです。

最初の職員会で、恩師の教頭先生や、その他の先生方の協力をいただき、創部の許可がでました。練習場所はグラウンドの隅っ子で雑草の生える10メートル四方、もちろんゴールポストもなしという0からの出発でした。部員募集で10名余の1年生が入部してきたした。他の部だと1年生はボール拾いですが、新設の部ならそれがないといったのが、入部の動機といった子どもばかりでした。

その子たちを前に、私は恥ずかし気もなく「3年生の時は全国大会に連れていくからな」と約束したのです。若気の至りだったのでしょう。その生徒らが2年生の時、新人大会で優勝しました。よろし、いけると意を強くして、春休み合宿を実施するなどして、夏の県大会に臨みました。しかし結果は決勝で、無惨な逆転負け。そんなに甘くないと痛感しました。（相手小松南部中・この年全国第3位）のフォーメーション攻撃になすすべがありませんでした。私は、子どもらに宿舎で手をついてあやまりました。

6年目、ようやく全国大会へ

その次の年もやはり決勝で敗れました。

翌年、太田（ブラザー）を攻撃の要に、2年の高木（筑波大）、藤田（北国銀行）らを擁し、ロングよし、速攻よしの攻撃型のチームで必勝の意気ごみで臨みましたが、またしても決勝で逆転負け。3年連続の悔し涙でした。その晩、私は指導力の限界を感じ、これ以上子どもらにみじめな思いをさせてはいけない、明日からはグラウンドへ行くまいと決心して床に就きました。しかし一夜明けると、その決心はどこへやら、早速グラウンドに向かい、残った1、2年生で炎天下で、ランニングから始めました。それこそ父兄とも必死に練習に励みました。土曜、日曜ともなれば、8人の選手とともに練習試合の相手を求めて各地をとび歩きました。そして6年めのこの年、ようやく宿敵南部中を破り初優勝。北陸三県大会も制し念願の全国大会への出場を果たしました。

1回戦は東海代表稲葉先生の汐路中。前年度第2位です。どうにか勝たせていただきましたが、2回戦は前半の5－1リードを守り切れず逆転負け。つくづく私の判断の甘さ、精神力の弱さを思い知らされました。全国大会独特の雰囲気に選手より私がのまれてしまうといった未熟さを痛感しました。

翌年は前年の余勢をかつて幸いにも連続出場が成りました。あのすばらしい中大体育館でのゲーム。その年優勝した熊本鶴城中の練習やゲームを見、その迫力（豪快な攻め、鋭いディフェンスのつめ、速攻のつなぎの速さ）に圧倒されて帰ってまいりました。

2年連続地元チームに
ー点差負け

翌年は熊本での大会でした。北陸とは違う暑さだということで、それこそぶっ倒れるほど炎天下で練習しました。失礼とは思いつつも高校のチームや実業団のチームに無理を承知でお願いし、胸を貸していただきました。

何とかベスト4には入りたい。そういう気持でゲームに臨んだのですが、あれよあれよというまに初の決勝進出を決めました。決勝の相手は熊本小川中。私や選手が夢にまでみた対決。しかも優勝をかけての試合。興奮をおぼえました。（ここまで熊本は6連勝中）

前夜、ミーティングでは無欲を強調しました。自分達のハンドボールをやろう。自ずと勝利が転がりこんでくると……。

前半は4－3でリードしましたが、後半エースにマンツーをつかれ、またもや逆転負け。よくここまでやってくれたという気持の半面、またしても采配ミスで子どもを泣かせてしまったと悔いが残っ



全国制覇を果たした寺井中のメンバー

てしかたがありませんでした。
あのマンツーを何とかできたのにという思いは、今でも消えません。
翌年、174センチの大型が育ち、ディフェンスの強化とともに守って速攻のチームを作りました。徳山での第10回大会です。私の選手に対するプレッシャーからか、いわゆる過呼吸症候群で選手が次々と倒れメンバー変更を余儀なくされるという、これまた私のチーム管理のまずさを露呈してしまいました。それでもどうにか準決勝まで進出し、地元住吉中との対戦になりました。フォーメーション攻撃にじらされ、またもや1点差負け。2年連続地元に1点差負けという悔しい思いをしました。

全国大会連続出場の夢断たれる

翌年（57年）は隣の富山県での大会ということ、また出場できれば5年連続ということで、選手達は、先輩に続け、先輩達の果たせなかった夢（優勝）を今年こそはと、ほんとうにまじめに黙々と練習に励んでくれました。しかし大会直前の主力のケガが響き、北信越大会決勝で、近年めきめき力をつけてきた同県の芦城中に敗れ、全国優勝どころか連続出場の夢も断たれてしまいました。その芦城中が初出場で初優勝という快挙。正直言って私は複雑な気持でした。

念願の全国優勝

とにもかくも新チームに切り換え、来年の大会を目ざしてより一層の厳しい練習をしました。巷間で寺井が次も負ければ、これで終わりだという声が私にも聞こえ、焦ったことは事実です。その私の焦りから、また選手達の勝ちたい、しかしつらいといった葛藤からか、退部申し出が相次いだり、選手同士のいざこざが絶えませんでした。しかし子どもらは、本当につらい練習に耐えてくれました。
1月に入ってから、かなりの練習試合をこなしましたが、けが人も少なく、県大会、北信越大会と順調に勝ち進み、全国大会に駒を進めました。決して大きくないチームでしたが、全国大会では、必死に守り、走り、シュートを打ってくれました。
一試合、一試合を大事に、1点1点を大切にという私の指示を忠実に守ってくれました。創部11年めの念願の全国優勝でした。
ここに至るまでの私の無理を理解し、協力して下さった、寺井中学校の先生方、保護者の方、未熟な私にいつも親切に御指導下さったたくさんのチームの先生方、ほんとうにありがとうございました。
また夢果たせず涙をのみ、その後もいつも応援してくれた先輩部員達ほんとうにありがとう。（祝賀会での君達の真心のこもった言葉忘れないよ）。
こんな素晴らしい先生方や父兄、子どもらにかこまれてハンドボールが続けられた幸せを感謝せずにはおれません。これからも体の続く限りハンドボールとともに生きてゆきたいと思いますし、微力ながらもハンドボールの発展に力を尽くしたいと思っています。

第5回東日本学生選手権大会

＜8月17～21日・笠間市民体育館他＞

＜男子＞

▽予選リーグ

北海道大	15	8-9, 7-5	14	神奈川大
法政大	25	13-6, 12-7	13	山形大
早稲田大	29	14-9, 15-4	13	東北学院
筑波大	35	18-5, 17-3	8	東京農大
茨城大	20	10-8, 10-8	16	金沢大
国士館大	24	10-1, 14-5	6	横浜国大
長野大	27	15-12, 12-9	21	東北大
中央大	17	10-7, 7-5	12	芝浦工大
東京学芸大	32	17-13, 15-10	23	北海道学院大
岩手大	18	7-8, 11-7	15	明星大
東京理科大	20	9-6, 11-8	14	福島大
東海大	27	12-6, 15-14	20	仙台大
慶応大	29	13-5, 16-3	8	亜細亜大
日体大	18	9-6, 9-5	11	順天堂大
日大	28	14-9, 14-3	12	専修大
横浜国大	23	10-14, 13-5	19	北海学園
金沢工大	24	9-13, 15-11	24	山形大
岩手大	28	15-10, 13-3	13	亜細亜大
国士館大	29	16-8, 13-9	17	東京学芸大
慶応大	26	13-8, 13-5	13	明星大
早稲田大	22	10-7, 12-5	12	神奈川大
専修大	24	9-7, 15-7	14	仙台大
筑波大	25	14-5, 11-8	13	東北大
東北学院大	21	10-8, 11-5	13	北海道大
日本大	23	13-8, 10-7	15	東海大
長野大	22	9-4, 13-7	11	東京農大
金沢大	25	13-9, 12-10	19	芝浦工大
順天堂大	24	12-2, 12-7	9	福島大
中央大	32	15-12, 17-7	19	茨城大
日体大	31	12-7, 19-4	11	東京理科
日本大	28	10-5, 18-8	13	仙台大
中央大	32	16-6, 16-6	12	金沢大
東海大	28	15-8, 13-12	20	専修大
法政大	28	15-8, 13-11	19	金沢工大
茨城大	22	9-8, 13-5	13	芝浦工大
日体大	29	15-8, 14-7	15	福島大
国士館大	38	19-10, 19-5	15	北海学園
早稲田大	21	9-6, 12-0	15	北海道大
順天堂大	24	12-8, 12-4	12	東京理科
東京学芸大	30	12-15, 18-12	27	横浜国大
神奈川大	27	13-9, 14-6	15	東北学院
筑波大	39	21-5, 18-4	9	長野大
慶応大	25	12-9, 13-6	15	岩手大
東北大	25	15-6, 10-11	17	東京農大
明星大	29	14-13, 15-9	22	亜細亜大

▽決勝トーナメント1回戦

日体大	28	15-10, 13-12	22	筑波大
国士館大	24	2-1, 1-1, 10-8, 11-13	23	早稲田大
慶応大	21	10-12, 11-8	20	中央大
日大	31	18-13, 13-8	21	法政大

▽準決勝

国士館大	34	15-13, 19-11	24	日体大
日大	32	17-7, 15-6	13	慶応大

▽3位決定戦

日体大	20	9-10, 11-8	18	慶応大

▽決勝戦

日大	23	11-12, 12-9	21	国士館大

＜女子＞

▽予選リーグ

日体大	40	23-7, 17-7	14	東海大
東京女子大	24	10-5, 14-8	13	東京学芸
日女体大	18	11-8, 7-9	17	茨城大
筑波大	44	21-1, 23-2	3	岩手大
日女体大	29	15-8, 14-5	13	東海大
日体大	20	9-5, 11-8	13	茨城大
筑波大	26	12-4, 14-5	9	東京学芸大
東女体大	29	15-4, 14-1	5	岩手大
東京学芸大	17	9-8, 8-9	17	岩手大
東女体大	21	7-10, 14-8	18	筑波大
日体大	14	8-5, 6-7	12	日女体大
茨城大	21	11-8, 10-6	14	東海大

▽決勝トーナメント準決勝

筑波大	28	13-9, 15-14	23	日体大
東女体大	16	1-2, 3-1, 5-7, 7-5	15	日女体大

西日本学生選手権大会

男子第22回・女子第13回

＜7月5～8日・岡山総合文化体育館＞

▽3位決定戦

日体大 28（16-10, 12-9）19 日女体大

▽決勝戦

筑波大 20（11-7, 9-9）16 東女体大

＜男子＞

▽1回戦

大阪体育大 48（22-5, 26-6）11 九州共立大

大阪学院大 27（10-12, 17-14）26 名古屋工業大

天理大 28（13-13, 15-10）23 愛媛大

福岡教育大 35（18-4, 17-6）10 広島修道大

中京大 35（15-12, 20-9）21 広島大

九州産業大 29（12-14, 17-12）26 関西学院大

大阪経済大 28（15-13, 13-7）20 愛知教育大

中部工業大 38（18-11, 20-13）24 京都教育大

大阪大 23（11-13, 12-5）18 福岡大

京都大 23（13-4, 10-5）9 名古屋学院大

関西大 27（10-7, 17-11）18 広島工業大

京都産業大 38（20-12, 18-12）24 長崎大

名城大 31（15-10, 16-7）17 久留米工業大

和歌山大 12-0 島根大

近畿大 33（16-10, 17-13）23 鳥取大

同志社大 39（23-8, 16-11）19 九州大

▽2回戦

大阪体育大 45（27-5, 18-3）8 大阪学院大

天理大 25（13-9, 12-10）19 福岡教育大

中京大 39（22-11, 17-12）23 九州産業大

中部工業大 37（19-15, 18-5）20 大阪経済大

大阪大 22（9-8, 13-11）19 京都大

関西大 28（17-15, 11-11）26 京都産業大

和歌山大 22（12-13, 10-7）20 名城大

同志社大 32（16-8, 16-6）14 近畿大

▽準々決勝

大阪体育大 41（20-7, 21-7）14 天理大

中部工業大 24（15-9, 9-12）21 中京大

大阪大 29（3-1, 1-2, 2-3, 3-2, 10-7, 10-13）28 関西大

同志社大 32（18-12, 14-8）20 和歌山大

▽準決勝

中部工業大 20（9-10, 11-9）19 大阪体育大

同志社大 34（17-4, 17-8）12 大阪大

▽3位決定戦

大阪体育大 33（17-14, 16-10）24 大阪大

▽決勝

同志社大 32（17-9, 15-11）20 中部工業大

＜女子＞

▽1回戦

大阪体育大 48（21-9, 27-7）16 九州女子短大

中京女大 31（15-1, 16-4）5 京都教育大

中京大 31（18-2, 13-3）5 岡山大

福岡大 23（10-6, 13-4）10 大阪成蹊女短大

福岡教育大 36（21-16, 15-10）26 天理大

大阪教育大 20（12-6, 8-5）11 岡山県立短大

愛知教育大 26（16-3, 10-10）13 山口大

▽準々決勝

大阪体育大 42（19-9, 23-8）17 中京女大

中京大 18（9-6, 9-7）13 福岡大

福岡教育大 24（2-2, 2-1, 11-7, 9-13）23 大阪教育大

武庫川女子大 30（13-2, 17-4）6 愛知教育大

▽準決勝

大阪体育大 27（11-6, 16-3）9 中京大

武庫川女子大 21（12-7, 9-7）14 福岡教育大

▽3位決定戦

福岡教育大 18（7-6, 11-8）14 中京大

▽決勝

大阪体育大 20（13-4, 7-4）8 武庫川女子大



第26回全日本教職員選手権大会

8月7～11日・奈良県生駒市

〈男子〉

▽1回戦

ATF（愛知）28－13 和歌山クA（和歌山）
埼玉（埼玉）17－14 岐阜教員B（岐阜）
富山教員B（富山）29－19 長崎教員（長崎）
宮城教員（宮城）31－19 越路ク（新潟）
東京教員（東京）29－18 鴨川ク（京都）
オールドイーグルス（大阪）19－16 岡山教員（岡山）
愛媛教員ク（愛媛）26－22 岩手フェザント（岩手）
静岡教員団（静岡）31－17 滋賀ハンターズ（滋賀）
島根教員ク（島根）20－14 神奈川教員B（神奈川）
ロイヤルスワロー（兵庫）26－22 あかぎクB（群馬）
福島教員（福島）24－18 若潮ク（千葉）
大阪ハンターズ（大阪）20－13 グランパス愛知（愛知）
長野教員（長野）31－27 三重教員（三重）
広島教職員団（広島）24－22 山梨教員（山梨）
滋賀教員（滋賀）24－16 宮崎教員（宮崎）
スワロー兵庫（兵庫）22－15 愛知教員（愛知）
山口県教員団B（山口）29－25 若潮クB（千葉）
神奈川教員A（神奈川）25－18 青森教員ク（青森）
岡山白桃ク（岡山）35－29 香川教員（香川）
富山教員A（富山）47－4 和歌山クB（和歌山）
岐阜教員A（岐阜）28－18 茨苑ク（茨城）
福井教員（福井）21－15 熊本教員オールド（熊本）
あかぎクA（群馬）24－15 大阪教員ハンドボールク（大阪）
岩手教員ク（岩手）20－15 京都教員（京都）

▽2回戦

栃の葉ク（栃木）21－16 ATF
富山教員B 23－17 埼玉
東京教員 31－18 宮城教員
オールドイーグルス 17－16 熊本教員（熊本）
わかくさク（奈良）26－10 愛媛教員ク
静岡教員団 28－21 島根教員ク
福島教員 33－27 ロイヤルスワロー
山口県教員団A（山口）23－21 大阪ハンターズ
埼玉教員ク（埼玉）28－19 長野
滋賀教員 25－19 広島教職員団
スワロー兵庫 31－14 山口教員団B
大阪イーグルス（大阪）19－18 神奈川教員A
愛知教員ク（愛知）22－18 岡山白桃ク
富山教員A 27－15 岐阜教員A
あかぎクA 23－9 福井教員
千葉教員（千葉）26－16 岩手教員ク

▽3回戦

栃の葉ク 37（19－7、18－8）15 富山教員B
東京教員 17（8－7、9－5）12 オールドイーグルス
わかくさク 33（16－4、17－8）12 静岡教員団
福島教員 27（14－14、13－11）25 山口県教員団A
滋賀教員 26（1－1、3－2、10－12、12－10）25 埼玉教員ク
スワロー兵庫 22（9－11、13－10）21 大阪イーグルス
富山教員A 22（11－4、11－11）15 愛知教員ク
あかぎクA 17（8－9、9－2）11 千葉教員

▽準々決勝

栃の葉ク 33（17－8、16－10）18 東京教員
わかくさク 29（13－6、16－6）12 福島教員
滋賀教員 23（11－9、12－6）15 スワロー兵庫
あかぎクA 21（10－5、11－8）13 富山教員A

▽準決勝

栃の葉ク 24（2－1、2－2、11－9、9－11）23 わかくさク
滋賀教員 17（8－7、9－8）15 あかぎクA

▽3位決定戦

わかくさク 21（13－8、8－10）18 あかぎクA

▽決勝

栃の葉ク 28（15－9、13－13）21 滋賀教員

〈女子〉

▽1回戦

都ク（京都）18－13 東花ク（東京）
千葉ク（千葉）19－7 桜球会（富山）
愛知教員女（愛知）13－10 大阪教員女（大阪）
埼玉白小鳩（埼玉）16－12 滋賀教員（滋賀）
生駒教職員ク（奈良）23－4 宮城教員（宮城）
福岡教員（福岡）24－9 茨苑女（茨城）
兵庫教員風見鶏ク（兵庫）24－15 神奈川教員（神奈川）

▽2回戦

都ク 14（7－5、7－5）10 栃の葉女子教員（栃木）
千葉ク 21（4－2、2－0、8－9、7－6）17 愛知教員女子
生駒教職員ク 16（9－9、7－5）14 埼玉白小鳩
福岡教員 19（10－7、9－4）11 兵庫教員風見鶏ク

▽準決勝

都ク 17（8－7、9－3）10 千葉ク
福岡教員 20（10－3、10－1）4 生駒教職員ク

▽3位決定戦

千葉ク 17（6－7、11－6）13 生駒教職員ク

▽決勝

都ク 21（9－10、12－3）13 福岡教員

素晴らしかったイタリア遠征

＝インテラムニアカップに優勝した日本女子ジュニアたちの体験記集＝

インテラムニア・カップに挑戦した日本女子ジュニア・ナショナルチームは、4勝2分でみごと優勝を果たした。選手たちの奮闘は、現地でも大変な人気で、日本のハンドボール界を世界に印象づけるとともに、スポーツを通しての友好も高め、成果の多いイタリア遠征であった。また各選手たちも、外国遠征で自信をつけ、さらに外国選手の力、技を目のあたりに見て、自分自身への飛躍の土台にもしたようである。その選手たちのイタリア遠征の感想を記してもらった。＜7月2日～13日＞

和で勝ちとった優勝

塩谷　治代

今年は昨年にひき続いて2度目の参加でしたが、昨年と比べて違った面が多数ありました。

まず第一に、昨年の経験者が6人もいたということがあげられます。谷口先生を含めて7人もの経験者がいたということは、ゲーム中はもちろん、ホテル内でもショッピングに出た時でも大変によかったと思います。一口に言って安心感があったということでしょう。ゲーム中は昨年のような不安だらけのオドオドしたものでなく、落着きみたいなものさえもってのぞむことができたような気がします。

1年以上にわたって何回か合宿などで練習、生活を共存している6人と9人の1年生。初めて今度の遠征メンバーを見た時は1年生の多さにおどろき、それに加えて秋成さんの不参加を聞かされた時は、ほんとうにどうしようかと思ったものです。しかし合宿に入ってみると不思議によくまとまり、初めて組んだチームとは思えない一体感が生まれました。よく考えてみると、こんどのチームとして練習したことといえば、ディフェンス練習と少しばかりの速攻練習しかしていないのです。それが優勝に結びついたということは、みんなの〝和〟でかちとったとしか言いようがありません。キャプテンという重い責任を、それなりに自覚をもって発言、行動できたことはチームメイトのおかげ、それも経験で私を支えて下さった2年生の力があったからこそと感謝しています。

今回のインテラムニアカップの優勝は、私たちにとって忘れることのできないよい思い出と経験になったことは間違いありません。この経験と喜びのうえに、更に精進を重ねて、来年に備えたいと思います。

ワールドチームに参加！

武藤夕起子

今回の遠征で一番心に残ったことはテラモでの試合でワールドチームの一員として参加し、他国の選手とゲームしたことです。日本からは私ひとりと聞かされて、はたして見ず知らずの言葉もわからない外国人選手たちの中にうまく溶けこんでいけるかとても心配でした。しかし同年代の人ばかりでみな気さくな人たちだったので、言葉は通じなくても何とか最後までやれました。ゲームの方は、最初の一戦はメンバーもフィールド6人、ゴールキーパー2人とぎりぎりのメンバーで、コートはアスファルトの駐車場にラインを引いただけのもの。けがの心配とワールドチームのメンバーとコンビがとれるかどうかの心配と緊張のうちにゲームが終ったような気がしました。全部で8戦やりましたが、8戦全勝で優勝することができ、責任が果たせて肩の荷が軽くなった思いがします。ワールドチームが対戦したのはジュニアーズといって各国のクラブチームですが、なかなか手強いチームが多く、とくにファイナルゲームで対戦したチームは最後まで接戦しての逆転勝ち。みんな力を出しきっての勝利で、メンバーが肩を抱き合って喜び合ったときは言葉のわからない心配などどこかへ吹きとんでいました。日本のチームの人たちと一緒にゲームすることはできませんでしたが、ワールドチームのメンバーとして他国の選手とゲームできたことはとても勉強になったし、友好も深めることができたのでよかったと思っています。できるなら来年もぜひ出場したいと思います。

外国選手の技を吸収

近藤　育子

初めてのイタリア遠征、一言に言ってとても楽しかったです。試合は優勝という栄冠に輝いてほんとにすばらしい2週間でした。

最初は食事で悩まされ、どうなることかと思いましたが、日がたつにつれてイタリアの環境にもなれてきました。でも〝生肉〟だけは最後まで見るのもいやでしたけれど……。

食事ではスパゲティが最高においしかったです。さすが本場だなあと思いました。寮のおばちゃんたちにも、お土産にマカロニをたくさん買いました。お土産といえば初めてで何もかも珍しく、つい衝動買いをしすぎて、後悔しています。

また来年もぜひイタリアに行きたい。そのためには今回イタリアで見てきた外国選手のプレーをこれからの練習の中で自分なりに研究して取り入れ、もっと実力をつけなければと決心を新たにしています。

失点を減らす努力を

小口　智子

今回は2度目とあって、去年とくらべてずいぶん余裕があったように思う。食事にも生活にも早く慣れることができたし、他の国の人とも積極的に話をすることができた。

試合は台湾、フランス、カナダイタリア、ガボンと5試合行い、台湾、イタリア、ガボンに勝ち、カナダ、フランスに引き分け。3勝2引き分けで優勝することができた。試合内容を考えてみると、どの試合も得点も多いが失点も多かった。まったく日本での試合では考えられないくらいの得点数だった。得点が多いことはよいことだが、もっと失点数を減らさなければと思った。また、カナダ、イタリアのチームは身体が大きく、ポストにボールが入るとかならずペナルティかゴールインになってしまうので、守り方を考えていかなければいけないと思った。ロングシューターに対しての守り方も考えなければいけない。

一番勉強になったことは、サイドディフェンスでサイドにボールを通してはいけないこと、ガボンはスローペースなので相手のペースにまき込まれないよう自分たちのペースで試合をするよう心がけた。台湾チームには5月の予選で勝っているだけに、負けられないという気持ちが強かった。

今回の遠征で優勝できたことは自分にとってもチームにとっても大変プラスになった。そのうえ、あのクレンペルさんに会えて、優勝の喜びにもう一ついい思い出ができた。

体験することの重要さ

松尾輝子

初めての海外遠征を体験しました。行く前は自分たりに世界のハンドボールはどういうものなのかといろいろ想像していました。速攻のスピード、ロングシュート、ボールキーピングのテクニックと自分なりに考えましたが、それはまったく無意味なことだと気づきました。やはり目で見て、実際に戦ってみてわかるものなのですね。戦いを終えた今、自分がすべてわかったとは思いません。でも、遠征で得たものを何かひとつでも試してみたいと思っています。

外国へ初めて行ってまず感じたことはコンディションのことです。テラモに着いてすぐ練習したわけですが、身体が重たくて思う様に動けず、何をするのにもだらだらしてしまう感じでした。3日くらいは身体が重たかったです。

初戦は地元イタリアとでした。なぜか私がスタメンに入っていました。自分自身、早く外国のチームとゲームがしたいという気持ちがあったので、とても嬉しかったです。でも相手がどういうプレーをするのかまったくわからなかったし、自分は何をすればいいのかもわからずにやったというのが本当のところです。先生方の言われたことは、頭ではわかっていてもいざその場になってみると手も足も出ず、目で相手を追うばかりでした。

外国の選手とゲームをしてみて感じたことは、ゴールインするまでの強引さ、それに各々の選手が余裕というか自信をもって動いているのがすごいと思いました。私はまだ土壇場にくると自分が逃げることしか考えない、とても弱い人間だと思います。今回の遠征でなにひとつチームに貢献できないで終ってしまったような気がして残念でなりません。もし今度という言葉が使えるなら、今回の経験を生かし何かひとつでもできるようになって、来年またぜひテラモに行きたいです。

来年の再訪を目ざして

服部　享予

何もかも不安だらけのイタリア遠征でした。まず飛行機が苦手なので、何時間も乗らなければならないことがいやでした。早く着かないかとそればかり考えていました。イタリアに着いて、バスでテラモに向う時、窓の外の街を眺めて日本とは違った景色、外国人ばかりが歩いている街(当然ですが)を見て〝ああ、私は今イタリアにいるんだ〟と何度も自分に言いきかせていました。ホテルに入ってからは大勢いる他国の選手に圧倒され、言葉も通じないので心配で心配でたまりませんでした。その上あの食事です。あの生肉……どうしてものどを通りませんでした。でもいざ試合となったら、イタリアの人たちが私たちに盛んに応援してくれ、いいプレーにはあたたかい拍手をしてくれるのでだんだん気分がほぐれてきました。

そして4勝2分の〝優勝〟。とてもとてもうれしかったです。言葉も通じないと思っていたのに、おみやげの買物もなんとか用を足せて……。また来年もぜひ行きたい。そのためにこれからも頑張ります。

新しい目標に向かって

山岸和子

イタリア遠征では、どのチームも楽に勝たしてはくれませんでした。特にカナダ戦、前半6点差をリードしたので、これはいけると思ったのが甘かったのです。後半、ズルズルと得点を許し、焦りが生まれ、タイムキーパーのミスか、1分50秒ほど早く試合が終り、結局引き分けになってしまいました。

今回の遠征で、体調を崩して自分の目標を達成できなかったのが一番ショックです。2年生としての役割りを果たすことができなかったことを反省しています。でもいろんな収穫がありました。上としての立場、練習面でのOF、DFのプレーなど、自分にとっては運のない遠征でしたが、それなりにプラスになったと思っています。この遠征を振りかえって、私は私なりの考えをまとめて、これからの目標を、また新たに立てたい思っています。

各地の記録

◇第35回岩手県民体育大会

（7月22～24日）

＜成年男子＞

▽1回戦

花巻送球会 30－23 鶏ク

花巻ク 42－9 石桜ク

岩手大 50－16 志高ク

▽2回戦

岩手教員ク 35－21 花巻送球会

富手スポーツク 22－21 岩手フェザント

花巻ク 32－20 盛岡商友会

白亜ク 23－21 岩手大

▽準決勝

岩手教員ク 26－17 富手スポーツク

花巻ク 22－18 白亜ク

▽決勝

花巻ク 21（10－9 11－9）18 岩手教員ク

＜成年女子＞

▽1回戦

岩手桐花ク 24－15 岩手大

白梅三英笑会 18－11 花巻ク

▽決勝

岩手桐花ク 15（10－4 5－6）10 白梅三英笑会

＜少年男子＞

▽1回戦

一関一高 20－16 盛岡三高

一戸高 11－9 水沢高

▽2回戦

花巻北高 44－9 一関一高

花巻農高 16－14 盛岡商高

釜石南高 22－19 久慈高

宮古高 30－7 岩手高

盛岡一高 27－22 生活学園高

大迫高 33－11 福岡工高

一関工高 15－13 福岡高

盛岡四高 30－7 一戸高

▽準々決勝

花巻北高 18－15 花巻農高

宮古高 15－11 釜石南高

盛岡一高 21－12 大迫高

盛岡四高 29－12 一関工高

▽準決勝

花巻北高 24－11 宮古高

盛岡一高 19－17 盛岡四高

▽決勝

花巻北高 22（10－6 12－7）13 盛岡一高

＜少年女子＞

▽1回戦

釜石南高 20－6 久慈山形高

▽2回戦

花巻北高 10－5 釜石南高

水沢高 14－12 岩手女高

花巻農高 7－2 大原商高

花巻南高 20－4 黒沢尻南高

一戸高 8－6 盛岡三高

平館高 24－2 宮古高

白百合学園高 12－6 釜石商高

▽準々決勝

花巻北高 15－2 水沢高

花巻南高 24－2 花巻農高

平館高 13－4 一戸高

盛岡二高 16－2 白百合学園高

▽準決勝

花巻南高 13－10 花巻北高

盛岡二高 11－7 平館高

▽決勝

花巻南高 13（10－3 3－6）9 盛岡二高

◇第36回富山県民体育大会

（7月25～27日）

＜一部少年男子＞

▽1回戦

氷見高 27－9 富山商高

高岡向陵高 24－11 八尾高

▽決勝

高岡向陵高 19（10－7 9－11）18 氷見高

＜一部少年女子＞

▽1回戦

高岡向陵高 18－8 高岡女高

有磯高 22－9 新湊高

▽決勝

高岡向陵高 19（10－10 9－6）16 有磯高

＜二部一般男子＞

▽1回戦

氷見ク 29－10 向陵ク

想球会 14－12 八尾ク

▽決勝

氷見ク 14（6－7 8－5）12 想球会

＜二部一般女子＞

▽1回戦

桜球会 12－8 想球会

有磯ク 11－2 高女OG

▽決勝

有磯ク 20（9－2 11－5）7 桜球会

＜二部中学男子＞

▽1回戦

般若中 17－11 福岡中

八代中 26－6 上滝中

八尾中 8－6 大門中

南星中 16－15 呉羽中

▽2回戦

八代中 22－13 般若中

南星中 16－4 八尾中

▽決勝

八代中 18（7－5 11－7）12 南星中

＜二部中学女子＞

▽1回戦

出町中 13－7 杉原中

小杉中 16－1 呉羽中

▽2回戦

出町中 11－9 国吉中

小杉中 20－6 氷見北中

▽決勝

小杉中 23（15－1 8－2）3 出町中

＜三部児童男子＞

▽1回戦

窪小B 2－0 女良小B

八代小 キケン 東小

▽2回戦

宇波小A 10－0 窪小B

八代小 6－4 薮田小

窪小A 9－2 余川小

女良小A 6－3 宇波小B

▽準決勝

宇波小A 10―0 八代小
窪小A 4―2 女良小A
▽決勝
宇波小A 10（4―2 6―2）4 窪小A

＜三部児童女子＞
▽1回戦
八代小 2―1 宇波小B
▽2回戦
仏生寺小A 3―0 八代小
女良小A キケン 余川小
薮田小 6―2 女良小B
宇波小A 4―0 仏生寺小B
▽準決勝
仏生寺小A 5―0 女良小A
宇波小A 2―0 薮田小
▽決勝
宇波小A 2（0―0 0―0 2―0 0―0）0 仏生寺小A

◇第5回東海中学総体

（8月10、11日）

＜男子＞
▽1回戦
汐路（愛知）36―7 元吉原（静岡）
那加（岐阜）18―17 白子（三重）
平田（岐阜）14―9 東（静岡）
新郊（愛知）15―13 西笹川（三重）
▽準決勝
汐路 17―5 那加
新郊 22―17 平田
▽決勝
汐路 13（5―5 8―7）12 新郊

＜女子＞
▽1回戦
汐路（愛知）28―6 日枝（岐阜）
西笹川（三重）25―7 元吉原（静岡）
朝明（三重）15―10 中山（岐阜）
豊国（愛知）16―9 東（静岡）
▽準決勝
汐路 16―7 西笹川
豊国 12―9 朝明
▽決勝
汐路 15（7―6 8―4）10 豊国

◇第35回福井県民体育大会

（8月13、14日）

＜一般男子＞
▽1回戦
福井市 21―16 鯖江市
▽2回戦
福井市 17―13 武生市
大飯郡 31―6 敦賀市
▽決勝
大飯郡 17（9―10 8―6）16 福井市

＜一般女子＞
▽リーグ戦
武生市 12―1 鯖江市
福井市 12―8 武生市
福井市 20―13 鯖江市
（順位）①福井市②武生市③鯖江市

＜高校男子＞
▽1回戦
武生 12―11 丹南
▽2回戦
武生 20―10 藤島
金津 16―15 高志
北陸 46―1 福井商
羽水 24―15 科技
▽準決勝
金津 27―7 武生
北陸 32―3 羽水
▽決勝
北陸 21（11―5 10―9）14 金津

＜高校女子＞
▽1回戦
高志 29―5 福井女
▽2回戦
羽水 10―7 高志
藤島 14―10 武生商
仁愛女 17―6 福井商
北陸 18―3 科技
▽準決勝
羽水 17―4 藤島
仁愛女 16―5 北陸
▽決勝
仁愛女 13（5―0 8―5）5 羽水

主な大会から

◇男子14回、女子9回 日韓学生国際親善

▽8月11日
〈男子〉
円光大 31（13―13、18―10）23 中部工大
〈女子〉
韓国体育大 39（24―5、15―7）12 東海学生選抜A

▽8月13日
〈男子〉
円光大 32（17―11、15―9）20 名城大
〈女子〉
韓国体育大 32（14―8、18―9）17 中京女大

▽8月15日
〈男子〉
円光大 40（19―11、21―10）21 東海学生選抜
〈女子〉
韓国体育大 40（23―3、17―4）7 東海学生選抜

▽8月16日
〈男子〉
円光大 30（17―12、13―12）24 中京大
〈女子〉
韓国体育大 40（19―7、21―7）14 中京大

◇ニューカレドニア国際親善

▽9月1日
関東選抜 39（19―13、20―12）25 ニューカレドニア
▽9月3日
日体大 33（16―17、17―12）29 ニューカレドニア
▽9月5日
筑波大 31（18―19、13―3）22 ニューカレドニア
▽9月9日
関西選抜 29（16―13、13―9）22 ニューカレドニア
▽9月11日
中央大 40（16―15、24―11）26 ニューカレドニア
▽9月13日
東海大 31（15―14、16―15）29 ニューカレドニア

◇第9回日韓社会人交流

▽第1戦（7月16日）
成均館大OB 33（20―14、13―8）22 J・S・H
▽第2戦（7月17日）
ソウル倶楽部 30（18―12、12―11）23 J・S・H
▽第3戦（7月18日）
円光大OB 30（13―14、17―12）26 J・S・H

※J・S・Hチーム
（全日本自衛隊選手権大会で1、2、3位の実績のあるチームの者で編成したチーム）

◇第10回全国高専選手権大会

（7月29、30日・福井県）

▽1回戦
一関 23―12 津山
明石 18―17 富山
徳山 18―15 鳥羽商船
沼津 21―15 釧路
八代 20―17 大阪府立

▽2回戦
一関 19―16 桐蔭学園
明石 17―16 徳山
沼津 14―7 福井

▽準決勝
八代 21―19 長岡
明石 23（13―7、10―8）15 一関
八代 21（14―4、7―6）10 沼津

▽決勝
明石 23（13―6、10―13）19 八代

◇男子14回女子13回全国教育系大学大会

（8月11日〜14日・北海道旭川市）

〈男子〉
▽リーグ戦
東京学芸大 37―26 宮城教育大
愛知教育大 22―16 京都教育大
北教大旭川 26―23 奈良教育大
東京学芸大 28―19 愛知教育大
北教大旭川 21―17 京都教育大
宮城教育大 35―24 奈良教育大
愛知教育大 33―19 北教大旭川
東京学芸大 34―28 奈良教育大
京都教育大 25―17 奈良教育大
愛知教育大 23―23 宮城教育大
東京学芸大 28―17 北教大旭川
京都教育大 29―20 宮城教育大
奈良教育大 20―19 愛知教育大
北教大旭川 22―19 宮城教育大
東京学芸大 25―22 京都教育大

〔順位〕①東京学芸大②北教大旭川③愛知教育大④京都教育大⑤宮城教育大⑥奈良教育大

〈女子〉
▽リーグ戦
東京学芸大 40―2 北教大旭川
愛知教育大 22―8 奈良教育大
愛知教育大 39―4 北教大旭川
東京学芸大 33―3 奈良教育大
奈良教育大 25―11 北教大旭川
東京学芸大 25―13 愛知教育大

〔順位〕①東京学芸大②愛知教育大③奈良教育大④北教大旭川

マスコットマークを!!

日本ハンドボール協会では、オリンピックを目ざす全日本チームを支援し、また、日本のハンドボール人口をより一層拡大するために賛助会制度を設けましたが、多くのハンドボールファンに愛していただくためにヨーロッパなどでは盛んに行なわれている協会のマスコットマークを募集することにいたしました。

尚、募集の詳細につきましては、次号にてお知らせします。

人から、まず人からの科学。バイオメカニクス。

7人は、鳥である。
7人は壁である。



はるか、上空での空中戦を展開する競技である。
鉄壁の、という形容がふさわしい競技である。
防御から攻撃へ、ひとつの動きで移っていく。
コートという名の戦場では、身につけるウェア
作戦のひとつなのだ。バイオメカニクスから
ハンドボールウェア〈スカイハンド〉。
武器のような7人のために。



株式会社アシックス 商品その他お問い合わせは、株式会社アシックス消費者相談課まで。
〒564 大阪府吹田市垂水町2番3号 ☎(06)385-1111(大代表)

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二二三号
昭和四十年六月 日 第三種郵便物認可
昭和五八年九月二十五日 印刷
昭和五八年十月一日 発行
東 渋谷区神南一―一―一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)